

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE  
GRADUATE SCHOOL OF MEDICAL AND PHARMACEUTICAL SCIENCES  
SCHOOL OF MEDICINE

2018・2019

CHIBA UNIVERSITY

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学 未来医療系事務部 医学部総務係  
Tel 043-222-7171 (大代表)  
www.m.chiba-u.ac.jp

Copyright(C) 2019 Chiba University.All Rights Reserved.



千葉大学  
大学院医学研究院・大学院医学薬学府・医学部

千葉大学

大学院医学研究院  
大学院医学薬学府  
医学部

CHIBA UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE  
GRADUATE SCHOOL OF MEDICAL AND PHARMACEUTICAL SCIENCES  
SCHOOL OF MEDICINE

2018・2019

2018・2019

 CHIBA UNIVERSITY

# 目次

## Index

医学部概況	3
トピックス	6
機構図	8
研究領域紹介	10
医学薬学府研究院等関連図	18
病院組織機構図	19
附属施設紹介	20
データ	24
プロジェクト	31
沿革図	40
沿革	41
歴代学部長・研究院長等	46
亥鼻地区の記念碑等	47
土地・建物一覧	50
アクセス	51





begin.continue  
千葉大学大学院医学研究院・医学部

## 140年余もの長きにわたり受け継がれてきた医学の伝統と誇り

“千葉医学” (CHIBA MEDICINE) は、明治7年(1874年)に千葉大学医学部のルーツである共立病院が地域住民等の献金により建てられて以来、140年以上に及ぶ、千葉大学医学部の伝統と達成された成果を包括する概念です。

### 千葉医学 三つの教え

千葉医学には、先達から引き継がれた伝統に裏打ちされた3つの教えがあります。

#### ● 獅胆鷹目行以女手

(したんようもくおこなうにじよしゅをもつてす)

「獅子のように細心にして大胆且つ動じない胆力、鷹のように諸事を見通し、判断、解決できる眼力、女手のように臓器を柔らかく扱い緻密に行える手技」という教え

#### ● begin.continue

Beginning is half the success, not giving up on the way is complete success.

「始めることが半分成功したことで、止めないことが成功すること」

旧第二外科教授の中山恒明(1910-2005)の残した言葉

#### ● 人間の尊厳

山浦晶元病院長が中心となって作成した大学病院の基本理念、「人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める」に由来した教え

### 千葉大学医学研究院・医学部

#### ● ミッション

千葉大学大学院医学研究院・医学部は、人類の健康と福祉に貢献すると共に、次世代を担う有能な医療人・研究者を育成し、疾病の克服と生命現象の解明に向けて挑戦を続けます。

#### ● 教育目標

千葉大学医学部の学生は、卒業時に  
1. 医学的知識・技能を理論と根拠に基づいて応用し、適切な判断と医療が実践でき、生涯にわたり自らの能力を向上させることができる。  
2. 医療制度を適切に活用し、社会および医療チームの中で医師としての役割を果たし、患者中心の医療を実践できる。  
3. 科学的情報を批判的に吟味し、新しい発見と創造のための論理的思考と研究を行える。

#### ● アドミッションポリシー

医学部では基礎学力があり、健康で多様性に富んだ次のような資質を兼ね備えた人を求めています。  
1. 創造性に溢れた論理的な思考のできる人  
2. 高い倫理観と強い使命感を持つ人  
3. 世のため人のために誠心誠意尽くすことのできる人  
4. 将来の日本および世界の医学をリードするような高い志を有する人

# 医学部概況 Overall



新築直後の千葉医科大学本館及び基礎医学教室航空写真(昭和5年ごろ)

医学部の歴史は古く、その創設は明治7年(1874年)に遡る。当時、衛生医事に関心の厚い千葉町、寒川村、登戸村等の有志の献金によって、千葉町に共立病院が設立されたのがそもそもの始まりである。

その後、明治9年(1876年)に公立に移管し、公立千葉病院となり、同時に院内に医学教場が付設されて、医学教育の第一歩を踏み出した。

明治15年(1882年)に同病院が改組されて県立千葉医学校及び附属病院となり、医学教育の場として益々本格的な活動に入った。

明治20年(1887年)に官立に移管され、第一高等中学校医学部となり、その後、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と変遷を経て、大正12年(1923年)には更に千葉医科大学に昇格した。

以後、千葉医科大学は幾多の研究業績により、その名は全国に知れ亘るところとなり、日本医学界の発展に貢献してきた。

昭和24年(1949年)に新製の国立総合大学として千葉大学が発足した際、千葉医科大学は千葉大学医学部となり、以後時代の要請とともに逐年拡充されてきた。

昭和30年(1955年)から大学院医学研究科(博士課程)が設置され、平成10年(1998年)からは、大学院医学研究科に独立専攻として高次機能系専攻が設置された。

平成13年(2001年)大学院医学研究院、大学院医学薬学府が設置された。

平成16年(2004年)学内共同教育研究施設としてバイオメディカル研究センター(旧遺伝子実験施設)が新たに建築された医薬系総合研究棟に設置された。

平成17年(2005年)医学薬学府に医学系修士課程(医科学専攻)、学内共同教育研究施設として社会精神保健教育研究センターが設置された。

平成19年(2007年)学内共同教育研

究施設として予防医学センターが新たに柏の葉キャンパス地区に設置されるとともに、経済産業省所管の中小企業基盤整備機構により、千葉大学亥鼻イノベーションプラザがインキュベーション施設としては日本で初めて医療系キャンパス内に設置され、産学連携による先端医療の開発・研究基盤が整備された。

平成20年(2008年)には医学部附属病院の新病棟が竣工し、医療環境の充実化を図ると共に未来開拓センターを開設し、最先端医療の開発・実行のための基盤が整った。

平成24年(2012年)および平成26年(2014年)には大学院医学研究院の改組が行われ、現在、2研究部門9講座の他、附属施設等において数多くの研究者が各分野において日進月歩の医学会に貢献している。

### 千葉大医学部の先人たち



中山 恒明 先生

食道がん外科治療の世界的なパイオニア。シカゴの国際外科学ミュージアムに業績が展示されている。



川崎 富作 先生

乳幼児の急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群を発見。「川崎病」と名づけられ、新疾患として国際的に認められた。



多田 富雄 先生

世界的免疫学者で抑制性(制御性)T細胞の発見者。また、新機能や多くの優れたエッセイの著作で有名、文化功労者。

## 「治療学」の推進と研究医、研究者の育成

医学には基礎医学と臨床医学がありますが、100年以上に及ぶ日本でも有数の長い歴史を有する千葉大学大学院医学研究院・医学部は、この2つの医学が結びついた『治療学』の研究推進と『治療学研究医、治療学研究者』の育成に力を入れています。

最先端の基礎研究の成果を新しい治療法の開発に結びつけ、難治性の疾患を治療に導いたりQOLを改善させたりするための『治療学』研究を目指す研究医と、最新の治療法を高い倫理観と患者さんを思いやる心を持って届けることのできる臨床医。この2タイプの医師の育成の要となるのが、千葉大独自の基礎と臨床の統融合をめざす教育プログラムです。医学部の基礎系・臨床系という旧態依然の枠組みを取り払い、医学部・医学研究院・医学部附属病院の「縦」の連携と、国内外の大学・研究施設・関連病院との「横」の連携を重視したプログラムです。詳細は「医学研究院グランドデザイン将来構想」も参照ください。

URL [www.m.chiba-u.ac.jp/about/granddesign.html/](http://www.m.chiba-u.ac.jp/about/granddesign.html/)

医学部では単に医学の知識や技能を習得するだけでなく「スカラシッププログラム」・「関東四大学研究医養成コンソーシアム」・「交換留学協定」などを通じ、年齢・専門分野・学校・国の枠を超えた実習・演習を行い、基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、研究計画の立案・実施に必要な科学的情報を収集する力とともに、論理的・批判的に思考する力をも養っています。

更に医学研究院では、「治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム(CIPT)」や「博士課程教育リーディングプログラム(LGS)」で、特にがんや免疫・アレルギー、動脈硬化症などの免疫関連疾患領域の治療学に関わるリーダーの人材育成に力を注いでいます。プログラムでは、海外17大学・国内外の企業18社や政府関連の3機関とも連携し、本プログラムのために新たに企画された治療学・イノベーション講義や研修を受けることができます。

## 「亥鼻キャンパス高機能化構想」による連携

また次世代の医学・医療を担う『治療学』の研究推進と、世界で通用する人材育成には、グローバルスタンダードの研究環境と大学院教育システムの構築が不可欠です。『亥鼻キャンパス高機能化構想』に沿って、医学研究院、薬学研究院、看護学研究科、医学部附属病院および関連研究センターが一丸となり、共同研究プロジェクトの推進・研究環境の整備(予算・スペース・機器の確保)・英語化推進・サバティカル研修制度の活用・外国人教員の採用などの拡充を進めています。

こうした縦・横の緊密な連携を活かした教育により、学生の皆さんの未来医療に対する視野も将来の選択肢も広がることでしょう。医学部・医学研究院では、将来ますます多様化する社会のニーズに指導者として対応できる医師や医学研究者を輩出し、医学と医療の分野で社会貢献を果たせることを願っています。

めざして  
「世界最高水準の  
医学研究・医学教育拠点」を  
亥鼻キャンパス高機能  
化構想のもとに



医学研究院長・医学部長

中山 俊憲

## 2018年度医学研究院執行部会メンバー

前列右から、下条直樹副研究院長(総務)、三木隆司総括副研究院長、中山俊憲研究院長、白澤浩副研究院長(大学院教育・総務)、丹沢秀樹副研究院長(総務)。

中央右から、山口淳副学部長(学部入試)、中島裕史副研究院長(企画戦略)、金田篤志副学部長(企画戦略)、齋藤哲一郎副研究院長(企画戦略)、宇野隆副研究院長(総務)。

後列右から、小川明宏事務部長、諏訪園靖副学部長(学部入試)、清水栄司副学部長(学部教育)、横手幸太郎副研究院長(広報・連携・国際化)、中山善将医学部事務長



治療学人工知能(AI)研究センターを設置

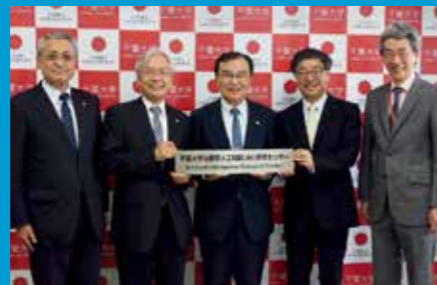
日本医学教育認証評価評議会(JACME)より認定

国立三大学共同大学院

カリフォルニア大学サンディエゴ校に共同研究拠点を設置

被引用論文数「免疫学」分野で日本第6位

## 研究



治療学人工知能(AI)センター看板掲式

千葉大学は、2018年4月、医学研究院附属治療学人工知能(AI)研究センターを設置しました。本センターは、医学研究院、附属病院等の基礎医学研究ビッグデータと医療ビッグデータを基盤に人工知能(AI)を構築し、実証研究及び臨床現場で実地利用の展開と共に、新しい学問領域として「AI治療学」を創成することによって、革新的な基礎研究の推進、精度の高い速やかな診断法の確立、これまでにない新たな治療法の開発、「AI治療学」を牽引する研究者、医療者、技術者など次世代を担う人材を育成します。2019年1月、人工知能(AI)医学領域に川上 英良教授が着任しました。

## 教育



2014年実地視察の様子

2010年の米国の外国医学部卒業生のための教育委員会(ECFMG: Educational Commission for Foreign Medical Graduates)からの通告を受け、2015年、日本の医学部の認証評価を実施する組織として日本医学教育認証評価評議会(JACME: Japan Accreditation Council for Medical Education)が発足され、世界医学教育連盟(WFME: World Federation for Medical Education)のグローバルスタンダードに準拠した基準を作成し認証評価を実施しています。千葉大学医学部は、2014年の評価、2017年の改善報告書の評価により、2017年4月1日付で正式に評価基準に適合していると認定されました。今後とも本学部医学教育のさらなる発展に努めてまいります。

## 大学院



共同大学院で実施する国際機関等への派遣研修

2016年4月から、千葉大学・金沢大学・長崎大学の国立三大学共同で「先進予防医学共同専攻(共同大学院)」を設置しました。この共同大学院では、3学の力を結集して、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実現する「先進予防医学」を掲げ、専門家の育成を目指します。本専攻では、多様なメディアを駆使した授業、柔軟なカリキュラム編成、きめ細かな履修指導により、働きながらも学ぶことができる体制を整え、修了生には「博士(医学)」の学位が与えられます。

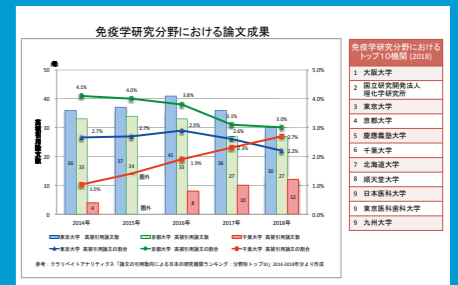
## 海外交流



2018年3月第2回シンポジウム

千葉大学は2016年4月にカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)医学部にサンディエゴ研究センターを設置しました。UCSDはノーベル賞受賞者を多数輩出した大学で、免疫学、システム生物学、メタボロミクス、天然物化学研究が盛んであり、アレルギーの基礎研究においても優れた成果を出している全米トップクラスの大学です。このサンディエゴ研究センターと亥鼻キャンパスに設置した千葉研究センターを中心に活発な交流活動が展開され、UCSDおよび千葉で2回の共同シンポジウムを開催したほか、UCSDの卓越した研究者とクロスアポイントメント契約を行うなど、共同研究を推進しています。

## ランキング



免疫学研究分野における論文成果 (高被引用論文数)

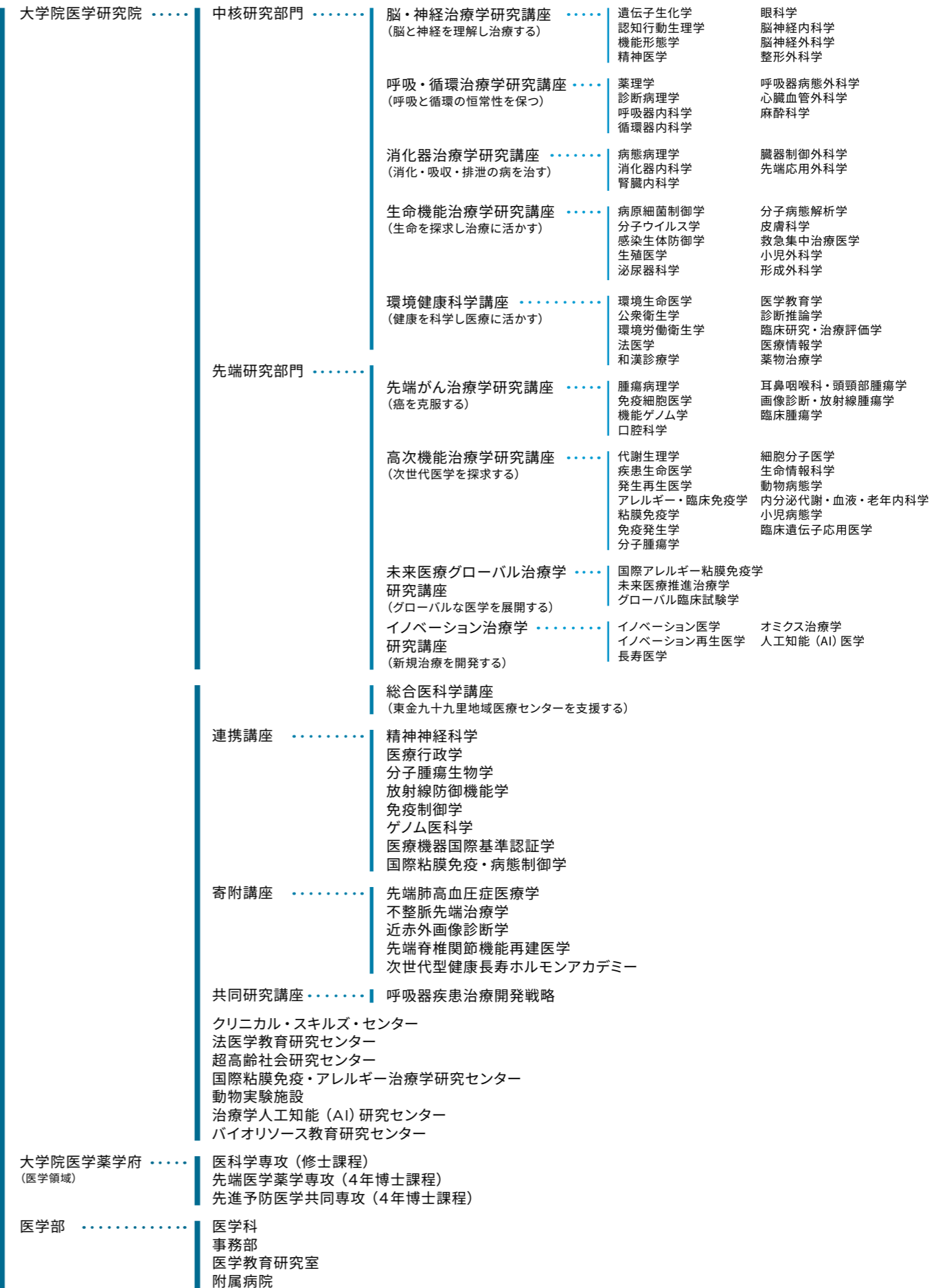
世界的な情報サービス企業であるクオリペイト・アナリティクスは、同じ分野の研究者に引用されている回数(被引用数)の多い論文数からみた日本の研究機関ランキングを2018年4月19日に発表し、千葉大学が「免疫学」分野で第6位(昨年も第6位で3年連続)にランクされました。この結果は、この分野において千葉大学が世界および日本の研究コミュニティの中で大きな存在感を持つことを示しています。「免疫学」分野は、本学「戦略的重点研究強化プログラム」中の「粘膜免疫・アレルギー治療学」の研究グループと深く関連しており、今後も更なる研究コミュニティへの貢献が期待されています。



# ORGANIZATION

## 機構図

### Organization Chart



# 研究領域紹介

## Introduction of Researchers

(2019年1月1日現在)



脳・神経治療学研究講座



脳・神経治療学研究講座



脳・神経治療学研究講座



脳・神経治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座

### 瀧口 正樹 教授

**遺伝子生化学**  
Department of Biochemistry and Genetics

#### 研究テーマ

- 1 行動・代謝・神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構。
- 2 脳の老化と神経変性疾患発症のメカニズム。
- 3 血管新生を制御する化合物の探索と開発。

**教育** 医学部2年次に生化学(遺伝・タンパク生化学サブユニット)の講義・実習を行っている。修士課程の先端生命科学特論講義と、博士課程の特論・演習・実習等を行っている。

**メッセージ** 当領域では、生化学・分子遺伝学に立脚した生命科学的研究を行っており、その成果が、医学の基礎的理解の深化と、健康増進、各種疾患の克服に繋がることを願っております。

### 清水 栄司 教授

**認知行動生理学**  
Department of Cognitive Behavioral Physiology

#### 研究テーマ

当研究領域は、「神経難病への挑戦」「生脳とこころの科学をきわめる。情報化社会で脳が適切に機能する認知と行動と感情のバランスよい連携を分子→動物→人間→世界の各段階で目指すメンタルヘルスの治療学。

**教育** 学部教育では、行動科学、神経生理学を担当。大学院の博士・修士課程では、不安・うつ・摂食・発達に対する認知行動療法、人の脳画像、脳刺激、モデル動物実験等の研究教育を実施。

**メッセージ** モデル動物の行動解析、分子生物学的、電気生理学的実験の基礎研究から、人を対象とした脳画像研究やランダム化比較試験のような臨床介入研究まで、幅広く学べます。

### 山口 淳 教授

**機能形態学**  
Department of Functional Anatomy

#### 研究テーマ

当研究領域は、「神経難病への挑戦」「生殖生物医学」という2大テーマで、神経変性疾患や脳梗塞の病態解明、生殖細胞から不妊症発症機構までの生殖生物学研究を行っている。

#### 教育

学部教育: 組織学、神経科学ユニット  
大学院教育: 高次脳機能学特論(博士課程) 先端生命科学特論(修士課程)

**メッセージ** 当教室は、形態学2教室が合併して誕生しました。形態学を基盤として多様な分子生物学的技術を取り入れ、「神経難病」と「生殖生物医学」の研究に取り組んでいます。

### 伊豫 雅臣 教授

**精神医学**  
Department of Psychiatry

#### 研究テーマ

統合失調症及び気分障害の病態解明及び予防法・治療法の開発。  
臨床試験及び遺伝子研究、iPS細胞を用いた研究。

#### 教育

学部教育: 精神医学  
大学院教育: 精神医学、リエゾン精神医学、精神薬理学、薬理遺伝子学、脳機能画像学、精神保健予防医学。

**メッセージ** 認知行動生理学教室や、社会精神保健教育研究センター、子どものこころの発達教育研究センター、と密接な連携を取り、様々な活動を行っています。

### 山本 修一 教授

**眼科学**  
Department of Ophthalmology and Visual Science

#### 研究テーマ

糖尿病網膜症などの網膜疾患における神経細胞保護薬の探索などの基礎的研究。網膜色素変性や網膜剥離における神経保護の臨床的および電気生理学的研究。

**教育** 学部教育: 視覚の重要性および全身疾患と眼疾患の関連性を重点的に教育。  
大学院教育: 神経系における視覚情報処理メカニズムやその保護について教育。

**メッセージ** 視機能の維持向上をメインテーマとし、網膜神経保護の臨床的・基礎的研究に、診療では不可逆的視機能障害をきたす網膜硝子体疾患と緑内障に注力しています。

### 桑原 聡 教授

**脳神経内科学**  
Department of Neurology

#### 研究テーマ

神経疾患の新規治療の開発を目指した病態研究・臨床研究を推進している。脳機能画像・免疫学・イオンチャネル生理学・分子生物学的アプローチを行っている。

**教育** 学部では系統講義、臨床実習、臨床研究への参加を実施。大学院では神経免疫学、イオンチャネル生理学、神経画像を駆使した集学的な疾患へのアプローチを学ぶプログラムを組んでいる。

**メッセージ** 神経系の神秘と臨床神経学・神経科学の魅力を実感できる臨床・研究を行なうことにより、すぐれた臨床医、独創的な研究者の育成と患者に還元できる医療・研究を目指しています。

### 岩立 康男 教授

**脳神経外科学**  
Department of Neurological Surgery

#### 研究テーマ

人にとって唯一無二の存在である「脳」を守る、これが私たちの使命です。扱う分野は、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、水頭症、脊髄疾患など多岐に渡っております。

**教育** 早い段階から脳機能の複雑さにふれてもらいその体験と知的好奇心を通して、一步一步確実にその機能と疾患の関連を解明していく人材を育てます。

**メッセージ** 再生させることが困難な脳においては、その機能を守ることが非常に重要になります。多くの疾患から脳を守るため、私たちがともに取り組んで行きましょう。

### 大鳥 精司 教授

**整形外科**  
Department of Orthopaedic Surgery

#### 研究テーマ

脊椎・関節を中心とした運動器慢性疼痛の病態解析と総合的画像診断、iPS細胞や関連技術による軟骨再生・末梢神経再生、最新の手術治療など、先進的な整形外科臨床・基礎研究を行う。

**教育** 専門的知識とプライマリケアの現場で必要とされる普遍的知識を織り交ぜながら、考察力と応用力をバランス良く獲得することを目的とした整形外科教育を心がけています。

**メッセージ** 近年の高齢化社会では整形外科医のニーズはますます高まっています。常に新しい知見を取り入れ本邦の整形外科を牽引する当教室で、これからの日本を支えていきましょう。



呼吸・循環治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座



呼吸・循環治療学研究講座



消化器治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座

吉野 一郎 教授

呼吸器病態外科学  
Department of General Thoracic Surgery

研究テーマ

肺癌の分子標的の探索と診断・治療システムの構築、肺の再生・成長、肺移植の最適化、呼吸器インターベンション。

教育 学部教育は呼吸器外科学総論・各論、卒後臨床教育は献体を用いた手術トレーニングを実施。大学院教育は上記研究領域に加え、胸部腫瘍学に力を入れている。

メッセージ 急増する肺悪性腫瘍は今や国民的課題です。肺移植はまだ途上の治療法です。今そして未来の患者と医学のためにともに頑張りましょう。

松宮 護郎 教授

心臓血管外科学  
Department of Cardiovascular Surgery

研究テーマ

重症心不全の治療法開発を主要なテーマとし、移植心虚血再灌流障害制御、補助人工心臓による自己心回復のメカニズム、心筋の再生療法、細胞シート移植などの研究。

教育 学部教育では心臓血管外科学の講義、アドバンストコース心臓血管外科ベッドサイドラニングを担当。大学院博士課程では上記テーマに関する基礎的および臨床的研究を指導。

メッセージ 豊富な手術症例から得られたデータをもとに臨床における疑問点の解決を目指し、また「ベンチからベッドサイドへ」を実践すべく臨床応用を目的とした基礎研究を行っています。

磯野 史朗 教授

麻酔科学  
Department of Anesthesiology

研究テーマ

上気道閉塞のメカニズム・閉塞型睡眠時無呼吸の病態生理・周術期呼吸管理・緩和ケアに関する臨床研究・小胞体ストレス反応に関する基礎研究。

教育 学部教育：麻酔科学  
大学院教育：麻酔科学、呼吸生理学、睡眠学、疼痛学、緩和医療学、分子生物学

メッセージ 麻酔の臨床現場において感じた問題や疑問点に対し、その解答を得るための臨床研究・基礎研究を行っています。

岸本 充 准教授

病態病理学  
Department of Molecular Pathology

研究テーマ

腫瘍の分化、AFP産生腺癌、消化器系疾患の病理学的研究。

教育 病理学

メッセージ 病理組織学的に観察される腫瘍の組織形態や細胞機能の背景にある生物学的意味を、個体の発生・分化の視点から研究しています。

清水 健 准教授

病原細菌制御学  
Department of Molecular Infectiology

研究テーマ

先進国で社会問題化している病原性大腸菌 O157 等の毒素や抵抗因子などの作用機序を分子レベルで研究し、細菌感染予防・治療に新たな道を切り開くことを目指している。

教育 講義では細菌の生物学的特性を理解させることを目的とし、実習ではこれらを実際に自分の手で取り扱う技術を修得させ、将来感染症に向き合う際に役立つように心がけている。

メッセージ 細菌毒素の産生機構や分泌機構、及び細菌毒素の作用機序の解明とそれによる病原性の解明を通して臨床応用を目指します。多くの学生・研究者の参加を歓迎します。

白澤 浩 教授

分子ウイルス学  
Department of Molecular Virology

研究テーマ

腫瘍ウイルス(パピローマウイルス)の発がん機構、腫瘍融解ウイルスに関する研究、肝炎ウイルス。

教育 学部教育：ウイルス学、生命科学特論・研究、医学英語、web-based test(wbt) 開発  
大学院教育：医学研究序説・生命倫理学特論、生体防御医学特論

メッセージ ウイルス研究は、感染症に留まることなく多くの疾患の病態解明・治療に役立ってきました。ウイルス研究を、様々な疾患の病態解明・治療に役立てたいと考えています。

彦坂 健児 講師

感染生体防御学  
Department of Infection and Host Defense

研究テーマ

寄生性原虫類のミトコンドリア、体内移行経路、臓器特異性、接着・侵入機序について基礎研究を行い、臨床医学分野への貢献を目指しています。

教育 学部教育：寄生虫学  
大学院教育：感染生体防御学、生体防御学特論

メッセージ 寄生虫ほど複雑で興味深い生き方をしている生物は他に類を見ません。研究は一筋縄では行きませんが、誰も知らない事を解明したい!と考えている方をお待ちしております。

生水 真紀夫 教授

生殖医学  
Reproductive Medicine

研究テーマ

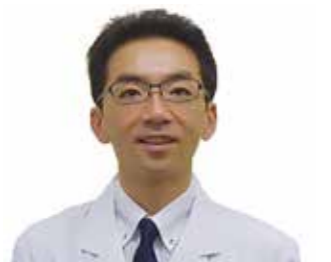
- 1 婦人科癌の原因解明と治療法開発
- 2 内膜症・筋腫の病態解明と治療法開発
- 3 難治性不妊症の治療法と着床前診断法の開発
- 4 エストロゲン合成酵素の分子・進化生物学的研究

教育 実地臨床のなかで生じた疑問からスタートして研究テーマを設定し、解決のための戦略を自らの力で立てることができるとは、研究は「世界で自分しか知らないこと」を見つけたときの楽しさを味わうことを大事にしています。

メッセージ 研究では「誰も知らないことを発見する」瞬間があります。たとえ小さな発見でも「世界中で自分しか知らないこと」を見つけたときの楽しさを味わうことを大事にしています。



消化器治療学研究講座



消化器治療学研究講座



消化器治療学研究講座



消化器治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座



生命機能治療学研究講座

加藤 直也 教授

消化器内科学  
Department of Gastroenterology

研究テーマ

肝胆膵疾患及び消化管疾患の病態の解明と新規治療法の創出

教育 臨床医としてのスキル向上と研究マインドの育成を行い、消化器内科医のプロフェッショナルを養成します。

メッセージ 消化器内科は多様な疾患を扱う領域ですが、特に悪性腫瘍の治療及び予防は重要です。日常診療のみならず、新しい治療法の開発の礎になる先駆的な研究を展開しています。

浅沼 克彦 教授

腎臓内科学  
Department of Nephrology

研究テーマ

- 1 慢性腎臓病の進行メカニズムの解明による新規バイオマーカー創出と新規治療法開発。
- 2 腎発生・老化のメカニズムの解明。
- 3 血液透析患者の免疫能低下の解明。

教育 講義では、臨床医として持つべき腎臓内科学分野の知識を幅広く習得ができるようにします。大学院教育では、臨床へ還元できるような研究医の育成を心がけます。

メッセージ 慢性腎臓病からの透析導入患者を減らすために高い目標を持って創業・診断法の開発に挑戦しています。同時に、リサーチマインドを持った腎臓内科医の育成を目指しています。

大塚 将之 教授

臓器制御外科学  
Department of General Surgery

研究テーマ

肝胆膵悪性腫瘍の分子生物学的検討、障害肝・黄疸肝における生体反応、肝移植の外科病態、乳癌における画像ナビゲーション手術、乳癌転移におけるプロテオミクス解析

教育 外科学(肝胆膵外科・乳腺甲状腺外科)

メッセージ 当講座は、主に肝胆膵外科と乳腺甲状腺外科の外科診療・研究・教育を行っています。常に世界最高水準の外科診療を提供し、Innovative Surgery を発信すべき臨床研究を行っているとともに academic surgeon の育成を目指しています。

松原 久裕 教授

先端応用外科学  
Department of Frontier Surgery

研究テーマ

消化器癌、乳癌、甲状腺癌の診断・治療学。低侵襲化手術や新規術式の開発。化学・放射線療法、分子治療、免疫細胞療法を軸に新たな複合治療法の開発を行っている。

教育 消化器外科学(食道・胃・大腸外科・肥満症外科) 乳腺甲状腺外科を根幹とし、遺伝子、分子の発現、細胞の機能、腫瘍の動向など高次の腫瘍学が理解できるように努めている。

メッセージ 消化器・一般外科学の基本を習得した上で、研究マインドを養成します。また、多様な知識から新しい発想の診断、治療法を生み出すための豊かな創造力を養成します。

市川 智彦 教授

泌尿器科学  
Department of Urology

研究テーマ

前立腺癌における機能性 RNA ネットワークの解明と去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療法の開発、尿路悪性腫瘍の進展、副腎腫瘍や尿路結石症の研究を行っている。

教育 学部教育ではユニット講義、アドバンストクリニカルクラークシップを担当している。大学院教育では主に前立腺癌をテーマとして泌尿器科学に関する研究の指導を行っている。修士課程では、遺伝カウンセリング養成コースを担当している。

メッセージ da Vinci システムを用いた先進医療や低侵襲治療の導入、新規治療の開発を目指した基礎的研究の遂行を通じて、surgeon scientist を目指す若手医師を応援しています。

田中 知明 教授

分子病態解析学  
Department of Molecular Diagnosis

研究テーマ

基礎と臨床の架け橋を目指して、最先端のプロテオミクス・質量分析技術、次世代シーケンサー/ゲノム編集技術を駆使した疾患分子病態解明と臨床応用研究を推進します。

教育 遺伝子診断学、遺伝分子医学、医臨床検査・臨床遺伝ユニット、臨床内分泌学、CC ベーシック(医学部)、生命情報科学(博士課程)、遺伝情報応用学特論(修士課程)

メッセージ がんや内分泌代謝性疾患を軸に、グローバルな「人」材育成・先端的「技」術習得・生命の「智」の理解を通じ、次世代の分子病態解析と革新的診断/治療法開発を展開します。

織田 成人 教授

救急集中治療医学  
Department of Emergency and Critical Care Medicine

研究テーマ

多臓器不全の病態生理と治療に関する研究、敗血症の病態生理に関わる遺伝子多型の解析、オートファジーの研究、各種急性病態におけるプロテオミクス解析

教育 学部教育：麻酔・救急ユニット、臨床入門(救急蘇生)、クリニカル・クラークシップ  
大学院教育：救急集中治療医学(博士課程)

メッセージ 敗血症をはじめとする急性期病態に関する最新の研究と新しい治療法の開発を進め、救急・集中治療医学領域で指導的立場に立てる専門医の育成をモットーとしています。

松江 弘之 教授

皮膚科学  
Department of Dermatology

研究テーマ

皮膚科学毛包由来3次元表皮の応用(アトピー性皮膚炎における新規遺伝子変異の探索)、皮膚感染症の病態(細菌・真菌)解析、皮膚疾患とマイクロバイオームの関連解析

教育 学部教育では学生アンケートから絶えずフィードバックし質の向上に努めている。大学院では、WIP での自由な議論を研究の進展に役立て、世界レベル研究を目指す。

メッセージ 医局員が皮膚科学の診療、教育、研究のすべてで、その継承と発展に全力で取り組んでいます。“We always speak with civility.”をモットーに和の中にも活発な議論を追求しています。





生命機能治療学研究講座

吉田 英生 教授

**小児外科学**

Department of Pediatric Surgery

**研究テーマ**

小児悪性固形腫瘍、消化管の発生と機能、胆道閉鎖症の病因と病態、外科代謝栄養、炎症性腸疾患の病因と治療。

**教育** 成長発達ユニットでの小児外科学講義と臨床チュートリアル・アドバンスト・クリニカルクラークシップ、卒後臨床研修後は基礎系研究室との共同研究(腫瘍免疫・肝胆道発生・消化管発生と免疫機序)

**メッセージ** 小児特有の専門的・総合的知識と技術、患者へのアプローチを熟知した医師の育成、小児外科難治性疾患の発生機序の解明・治療と予防に繋がる臨床・基礎研究に傾注しています。



生命機能治療学研究講座

三川 信之 教授

**形成外科学**

Department of Plastic and Reconstructive Surgery

**研究テーマ**

頭蓋顔面骨の形態異常および機能異常の病態と治療の研究、体表形態異常の再建治療の研究、脂肪幹細胞を用いた再生脂肪移植・再生骨移植の研究、リンパ浮腫治療の研究、皮弁血行動態の基礎的研究。

**教育** 学部学生には基本診療科の一つとしての形成外科の重要性、形態異常を持った患者の心的影響の考察、大学院生には形成外科専門分野の深淵を求めた上記テーマの如き基礎的研究の探求。

**メッセージ** 形成外科は顔面を中心とした体表形態異常の改善を目的に患者個々のQOLの向上を目標とした外科学の一つです。本領域における全国トップレベルの治療を進めています。



環境健康科学講座

森 千里 教授

**環境生命医学**

Department of Bioenvironmental Medicine

**研究テーマ**

環境要因・化学物質によるヒト健康影響に関する研究を発生学的視点から進め、発生・発達の乱れによる疾患の予防に関する研究、肉眼解剖とその応用臨床研究の探索と開発。

**教育** 学部教育:肉眼解剖学(骨筋学・発生学含む) 大学院教育:環境健康科学、サステイナブル環境健康科学、肉眼解剖学(修士課程)、環境医学、環境生命医学(博士課程)

**メッセージ** 環境と健康に関する研究・教育でのグローバル化を目指し、欧米、特に独・仏との連携を図っています。「千里の道も一歩から」を念頭に、高い目標に向かうラボを築きます。



環境健康科学講座

羽田 明 教授

**公衆衛生学**

Department of Public Health

**研究テーマ**

川崎病の遺伝素因探索とその臨床応用に関する研究、ゲノム解析手法の開発、医療アクセスに関する研究、生活習慣病発症要因に関する研究

**教育** 学部教育:公衆衛生学、生命倫理学、臨床遺伝学 修士課程:公衆衛生学、遺伝カウンセラー養成コース 博士課程:公衆衛生学、人類遺伝学

**メッセージ** 多因子疾患である川崎病、単一遺伝子病が疑われる小児疾患のゲノム解析を進めています。また、千葉市のビッグデータを使った社会格差と受診などの解析を進めています。



環境健康科学講座

生坂 政臣 教授

**診断推論学**

Department of Diagnostic Medicine

**研究テーマ**

問診の操作特性、患者受療行動、患者医師関係、遠隔診断・診療、外来診断学・診断推論プロセスの解析・AI診断。

**教育** 臓器横断的に、また生物・行動・社会・倫理的に診療するスキルの教育。

**メッセージ** 病歴と身体診察を切り口とした症例を一流海外誌に多数報告しており、総合的な診断技術で世界トップレベルであることを自負しています。



環境健康科学講座

花岡 英紀 教授

**臨床研究・治療評価学**

Department of Clinical Research and Evaluation of the Medical Therapeutics

**研究テーマ**

臨床研究の科学的方法論および倫理的課題、医薬統計に関することを研究テーマとしている。臨床試験の計画立案から実施、ガイドライン作成、関連する行政的課題も取り上げる。

**教育** 臨床研究入門、応用、展開および医薬統計を通して、臨床研究の基本的な知識を学ぶとともに、研究を通じて課題解決を行い、実践的な知識を学ぶ。

**メッセージ** 臨床研究のゴールは成果を患者に届けることであり、その方法論を身に付け、研究者として学んだことを将来継続して実践できることを目指し、研究・教育を進めています。



環境健康科学講座

鈴木 隆弘 准教授

**医療情報学**

Department of Medical Informatics and Management

**研究テーマ**

医療情報学、電子カルテ、地域医療連携、テキストマイニング、データマイニング、M言語

**教育** 医療情報学、地域医療学、データベース、情報セキュリティ

**メッセージ** 全国的な医療データベースが整備され始めています。当講座では附属病院企画情報部と一体となってこれらに積極的に関与し、医療ビッグデータの活用に貢献しています。



環境健康科学講座

石井 伊都子 教授

**薬物治療学**

Department of Pharmacotherapy

**研究テーマ**

抗菌剤や免疫抑制剤の処方設計に関する研究、薬効や副作用のメカニズム解析、病態における薬物動態の変化、血管細胞への薬の影響、製剤に関する研究等を遂行している。

**教育** 学部教育では、薬物動態学、薬理学、専門職連携教育(IPE)など薬に関する講義を担当している。大学院教育では生命倫理学特論、薬物療法情報学特論を担当している。

**メッセージ** 薬物治療は複雑化・高度化に伴い完治・緩解の確率が上昇していますが、同時にリスクも高くなっています。安全で安心な薬物治療の提供のため、薬剤師ならではの研究を進めています。



環境健康科学講座

諏訪園 靖 教授

**環境労働衛生学**

Department of Occupational and Environmental Medicine

**研究テーマ**

有害物質・微量元素の人体影響に関する疫学研究、職域における健康管理に関する産業疫学的研究、生活習慣病に関する遺伝子多型の疫学的評価に関する研究。

**教育** 普遍教育:環境マネジメントシステム実習 学部教育:衛生学 大学院教育:環境労働衛生学、公衆衛生学

**メッセージ** 人間集団を対象にした先進的疫学研究手法の開発により、環境・労働衛生学・保健予防医学・国際共同研究の推進を図り、国民の健康の保持増進に貢献する事を目指しています。



環境健康科学講座

岩瀬 博太郎 教授

**法医学**

Department of Legal Medicine

**研究テーマ**

解剖、組織検査、画像検査、薬物検査等死因究明に必要な諸検査の精度を向上させる研究、筋性減症候群や熱中症におけるミオグロビンによる脂質酸化の関与に関する研究。

**教育** 講義及び実習だけでなく、解剖や諸検査の実務の見学を通し、法医学の目的を正しく理解する。

**メッセージ** 法医学は国民の権利を守る医学と定義できる幅の広い学問領域です。法医学は死因究明だけでなく、生体診察も行うことがあるということもぜひ知っていただきたいと思います。



環境健康科学講座

並木 隆雄 准教授

**和漢診療学**

Department of Japanese-Oriental (Kampo) Medicine

**研究テーマ**

東西洋医学の統合医療推進するため、東洋医学の診察法や診断法を科学的に改良する研究、漢方薬の新たな疾患への応用、漢方薬の作用機序に関する研究、鍼灸治療に関する研究。

**教育** 学部教育:和漢診療学 大学院教育:和漢診療学(博士課程)、薬物療法情報学(修士課程)

**メッセージ** 漢方医学と西洋医学の両方の長所をとりいれた医療を学べます。とくに、漢方の診断や治療(鍼灸も含む)を科学的な目で解析をしたい方を求めています。



環境健康科学講座

朝比奈 真由美 准教授

**医学教育学**

Medical Education Office

**研究テーマ**

専門職連携教育、コミュニケーション教育、プロフェッショナリズム教育、臨床医学教育、医学英語教育のプログラム開発と評価研究。FDプログラム開発と評価研究。IR調査研究。

**教育** 専門職連携教育、コミュニケーション教育、プロフェッショナリズム教育、医学英語教育の実践。カリキュラム開発、評価およびアクティブ・ラーニングの実施支援。留学支援。

**メッセージ** アウトカム基盤型教育のフレームワークに従って、学年順次性を持ったラセン型カリキュラムの構築、実践、評価を行っています。世界で活躍できる人材育成を目指しています。



先端がん治療学研究講座

池原 譲 教授

**腫瘍病理学**

Department of Molecular and Tumor Pathology

**研究テーマ**

疾患モデルの作成と解析による「がんの発生と進展メカニズム」の解明・病理と理工学の融合による「プラズマ技術や超1000nm近赤外波長域イメージング技術」の実用化研究。

**教育** 病理学総論、病理学各論、臨床医科学特論。

**メッセージ** 理工学や基礎生命科学との接点となり、医療イノベーション創出の場となる病理学教室を目指しています。



先端がん治療学研究講座

本橋 新一郎 教授

**免疫細胞医学**

Department of Medical Immunology

**研究テーマ**

抗腫瘍効果をもつ免疫細胞を利用したがん治療の開発研究を行う。治療用免疫細胞の詳細な作用機序およびがんの免疫抑制作用を解明し、有効で安全な新規治療法を開発する。

**教育** 腫瘍免疫に関わる免疫システムを理解し、有効で安全な免疫治療を開発するために必要な教育を行う。

**メッセージ** 難治性疾患の代表である固形がんを対象として、自己および他家の免疫細胞製剤を用いて安全で副作用の少ない新規治療法の開発研究を行っています。



先端がん治療学研究講座

関 直彦 准教授

**機能ゲノム学**

Department of Functional Genomics

**研究テーマ**

癌細胞における機能性RNA分子ネットワークの探索。マイクロRNA発現プロファイルに基づく「癌転移抑制型マイクロRNA」の探索。

**教育** 癌細胞の転移抑制型マイクロRNAの探索と、マイクロRNAが制御する新規分子ネットワークについて、大学院の研究・教育を行っています。

**メッセージ** 機能性RNAの1種であるマイクロRNAに着目して、癌・ゲノム研究を進めています。特に、癌細胞の転移に関わるマイクロRNAの研究をしています。



先端がん治療学研究講座

丹沢 秀樹 教授

**口腔科学(歯科・顎・口腔外科)**

Department of Oral Science (Department of Dentistry and Oral-Maxillofacial Surgery)

**研究テーマ**

抗癌剤耐性克服薬、放射線増感剤、癌転移抑制薬などの開発に成功し、国内特許の申請・取得など積極的な展開をしている。唾液腺再生療法といった最先端の研究も行っている。

**教育** 学部教育として医学部学生に対して講義等により医用材料学や歯科領域疾患を紹介している。大学院教育では基礎研究や臨床研究を指導し、論文作成・発表を実施している。

**メッセージ** 現在、基盤研究A、Bなど多くの科学研究費を獲得、維持しており、非常に良好な研究成果、評価を得ています。今後、独自シーズによる臨床研究に結び付けることを予定しています。



先端がん治療学研究講座

岡本 美孝 教授

**耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学**

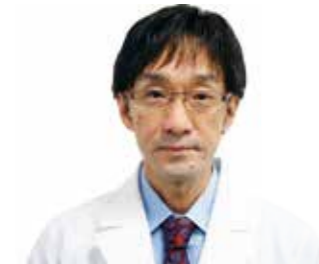
Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery

**研究テーマ**

耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学全般、特に頭頸部癌に対する免疫細胞治療の開発、ならびに遺伝子発現解析、アレルギー性鼻炎の病態研究・免疫療法含む新規治療開発、喉頭生理研究

**教育** 学部学生にはユニット講義、頭頸部・側頭骨の肉眼解剖実習への参加指導、マンツーマンでの病院実習、大学院生は免疫、アレルギー、エピゲノム、がん遺伝子をテーマに研究

**メッセージ** 教室員の可能性を引き出すことをモットーに、頭頸部腫瘍の治療や、免疫細胞療法及びアレルギー性鼻炎の新規治療開発など臨床を見据えた研究に全員で取り組んでいます。



先端がん治療学研究講座

宇野 隆 教授

**画像診断・放射線腫瘍学**

Department of Diagnostic Radiology and Radiation Oncology

**研究テーマ**

新たな画像診断技術の開発と機能画像による病態の解明、画像診断技術の応用による高精度低侵襲がん放射線治療技術の開発とその臨床評価に関する研究

**教育** 画像診断、IVR、核医学、放射線腫瘍学、医学物理、放射線生物学に関する基礎研究から臨床応用まで幅広く学習（博士課程）

**メッセージ** 画像診断・放射線治療学の発展を先導し、社会や地域に貢献できる臨床医・研究医を育成すべく、専門医集団が高度で専門的な最先端の放射線医学を幅広く指導しています。



先端がん治療学研究講座

滝口 裕一 教授

**臨床腫瘍学**

Department of Medical Oncology

**研究テーマ**

領域横断的がん集学的治療の臨床試験を行うことにより、臓器横断的な研究開発能力を有するがん治療専門医を効率的に教育する方法、及びそのためのプログラムを開発する。

**教育** 附属病院「腫瘍内科」のカウンターパートとして、卒前においては臓器横断的腫瘍内科学の教育・実習、卒後においては臨床試験の立案・計画・実行ができる専門教育を行う。

**メッセージ** 領域横断的な腫瘍学を教育・研究・実践します。大学院での研究・研修を通じて、がん薬物療法専門医となり、高度な専門的技術を修得して下さい。



高次機能治療学研究講座

三木 隆司 教授

**代謝生理学**

Department of Medical Physiology

**研究テーマ**

糖尿病発症の分子機構解明および新規治療法の開発

**教育** 糖・エネルギー代謝制御をテーマに、分子から個体レベルの各階層の情報ネットワークを解明するための知識・技術を学び、生命科学における科学的思考法を体得する。

**メッセージ** 常に新しい発見を目指し、情熱を胸に抱いて前進できる、気概を持った仲間を求めています。



高次機能治療学研究講座

金田 篤志 教授

**分子腫瘍学**

Department of Molecular Oncology

**研究テーマ**

ゲノム及びその修飾情報であるエピゲノムの異常は癌の原因となります。癌に蓄積する分子異常を網羅的解析し、特にエピゲノム異常を誘導する分子機構の解明を進めています。

**教育** 学部：生化学（代謝・栄養生化学）大学院：環境健康科学特論などの講義、治療学演習などの実習、癌エピゲノムの研究教育。

**メッセージ** 感染、炎症など様々な環境因子により細胞のエピゲノムは変化します。その影響による発癌機構の解明、癌治療標的としての応用に興味のある方、訪問を歓迎します。



高次機能治療学研究講座

田村 裕 准教授

**生命情報科学**

Department of Bioinformatics

**研究テーマ**

生命情報解析、構造生命科学、分子標的薬、光免疫誘導による非侵襲性医療に関する研究

**教育** 大学院（博士課程）：生命情報科学、新基盤病態医学特論、リーディングプログラム治療学演習、リーディングプログラム治療学実習、イノベーション治療学演習

**メッセージ** 基礎医学の発展と臨床医学の充実に寄与できるような理論・概念を創生すると共に、数理学による生命現象の解明を目指した研究を展開したいと思っています。



高次機能治療学研究講座

伊勢川 直久 准教授

**動物病態学**

Department of Comparative Pathology

**研究テーマ**

動物実験と実験動物の管理、特に ICT 活用に関する研究

**教育** 普通教育情報処理学、医学薬学研究序論（実験動物学）、動物実験教育訓練

**メッセージ** 動物実験・実験動物に関係する国際・国内環境は厳格化に向かっています。千葉大学の動物実験も一層管理強化へ向かうことになる中でしています。



高次機能治療学研究講座

横手 幸太郎 教授

**内分泌代謝・血液・老年内科学**

Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology

**研究テーマ**

糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症の分子機序、白血病・GVHDの分子機序と関連遺伝子解析、内分泌疾患の原因遺伝子、早老症など。

**教育** 内科学を基盤に代謝内分泌学・血液病学・老年医学を学び、卒後臨床研修や大学院の研究を通じて、臓器横断的にグローバルな視野で次世代の医療に貢献する physician scientist を育成します。

**メッセージ** アカデミックな考え方に基づき、全身を診る内科医を目指します。質の高い基礎/臨床研究により病態・機序を解明し、疾患と合併症の制圧につながる新たな診断・治療法の開発に取り組んでいます。



高次機能治療学研究講座

幡野 雅彦 教授

**疾患生命科学**

Department of Biomedical Science

**研究テーマ**

腸管神経・免疫系による腸内恒常性維持機構の解析、疾患モデルマウスを用いた発生・免疫異常の病態解析と治療法開発、炎症性疾患の病態成立の解明と治療法の探索

**教育** 医学部教育：遺伝分子医学（胚工学を担当）大学院教育：疾患モデル論（博士課程）、生体防御医学（修士課程）

**メッセージ** 最先端技術を駆使し疾患モデルマウスを用いた難治性疾患の病態解明・治療学推進をめざした研究をしています。チャレンジ精神と熱意のある志の高い仲間を求めています。



高次機能治療学研究講座

斎藤 哲一郎 教授

**発生再生医学**

Department of Developmental Biology

**研究テーマ**

神経系を構築する分子機構の解明。特に、神経ネットワークを制御する分子の機能解析と神経幹細胞の若返りを目指した研究

**教育** 学部で遺伝分子医学とイノベーション医学の2科目、大学院では必修の医学薬学研究序説・生命倫理学特論、選択科目の高い教養を涵養する特論、CVPP 特論など7科目

**メッセージ** 「基礎を究めて、より大きな展開」を目標に研究しています。



高次機能治療学研究講座

中島 裕史 教授

**アレルギー・臨床免疫学**

Department of Allergy and Clinical Immunology

**研究テーマ**

気管支喘息の病態解明と新規治療戦略の開発、関節リウマチ治療の最適化、膠原病の病態解明、T細胞の分化制御機構・サイトカイン産生機構に関する基礎研究を行っています。

**教育** 学部教育（アレ膠ユニット）から卒後臨床研修まで一貫してアレルギー・膠原病領域において世界に通用する Physician Scientist の育成を目標に教育（洗脳?）を行っています。

**メッセージ** 「世界に誇る千葉大の免疫学を臨床の場へ」をスローガンにアレルギー疾患と自己免疫疾患を対象にした基礎と臨床を統融合した独創的な研究と、最先端の診療を行っています。



高次機能治療学研究講座

中山 俊憲 教授

**免疫発生物学**

Department of Immunology

**研究テーマ**

免疫記憶の基礎研究、慢性アレルギー性気道炎症の研究、癌の免疫治療の開発研究

**教育** 学部：免疫学、基礎医学ゼミ、スカラシッププログラム 大学院：高い教養を涵養する特論、プレゼンテーションセミナー上級、治療学演習、生体防御医学特論

**メッセージ** アレルギー・がん・慢性炎症といった「免疫系」が深く関与する病態の基礎・臨床研究を通じ、治療を目指した「治療学」の研究を推進しています。意欲溢れる若手の参加を望みます。



高次機能治療学研究講座

下条 直樹 教授

**小児病態学**

Department of Pediatrics

**研究テーマ**

小児免疫アレルギー疾患の病態解析・予知予防、遺伝性神経疾患の分子生物学的解析、ワクチン・感染免疫、川崎病の新規治療法、小児悪性腫瘍の病態解明、小児内分泌疾患の病態解析、新生児疾患の病態解析と新規治療法

**教育** 基礎研究、臨床研究を行える環境にある総合大学の特徴を生かし、学部学生、初期研修医、後期研修医教育を通じてリサーチマインドを有する医師を養成します。

**メッセージ** 明るく楽しく、教室員の能力・長所が伸びる環境を皆で作り、国際的に通用する臨床・基礎研究の発信を目指します。小児における臨床試験も推進します。



イノベーション治療学研究講座

江藤 浩之 教授

**イノベーション再生医学**

Department of Regenerative Medicine

**研究テーマ**

ヒト造血幹細胞や前駆細胞の持つ自己複製機構を次世代シークエンス技術や材料工学分野との融合により解明し、難治性疾患に対する新規再生医療の開発と産業化戦略を示す。

**教育** 科学者の究極のエゴは、自己の知りたいと願う欲求を満たすことにあると思います。それを大切に、病気の本態を考えて診断法や治療法を提案できる人を育てたいと思います。

**メッセージ** H28年度にスタートした新しい教室です。イノベーション（技術革新）をやり遂げたいと少しでも考えている人はいつでもコンタクトをしてください。待っています。



イノベーション治療学研究講座

眞鍋 一郎 教授

**長寿医学**

Department of Aging Research

**研究テーマ**

加齢関連疾患（生活習慣病とがん）の分子メカニズム。複数の臓器が連携するメカニズムやマクロファージのエピジェネティクス制御機構について。新規診断・治療法の開発。

**教育** 臨床医学とも関連させて疾患の分子機序を理解するとともに、生命科学の基本的な考え方と方法を習得し、独立して研究するのに必要な力を身につけることを目標にします。

**メッセージ** 生体の恒常性維持と病態の分子メカニズムについて、最新テクノロジーを導入した多角的な解析を行い、新しいコンセプトの発信と医療への展開を目指しています。



イノベーション治療学研究講座

川上 英良 教授

**人工知能 (AI) 医学**

Department of Artificial Intelligence Medicine

**研究テーマ**

機械学習・数理学に基づく疾患の層別化と予測アルゴリズム開発を通じて個別化・予測医療の実現を目指します。新しいオミクス解析手法開発も進めています。

**教育** AI・数理学と医学・生物学の両方を理解し活用できる人材の育成を行います。様々な分野の学生・研究者・医師が交流するイノベーションの場を作りたいと思います。

**メッセージ** 近年、AI技術の普及により医学・生物学が大きく変わろうとしています。新しい医学のパラダイムを、研究室員および臨床・基礎の先生方と一緒に作っていきたいと思います。

# 医学薬学府 研究院等関連図

## Relationship Map

大学院医学薬学府及び医学研究院・薬学研究院並びに医学部・薬学部の関連図

### 医学薬学府 (大学院教育組織)

- 修士課程 (医学領域)  
医科学専攻
- 修士課程 (薬学領域)  
総合薬品科学専攻
- 4年博士課程 (医学領域・薬学領域)  
先端医学薬学専攻
- 4年博士課程 (医学領域)  
先進予防医学共同専攻
- 後期3年博士課程 (薬学領域)  
先端創薬科学専攻
- 附属施設  
薬用資源教育研究センター

### 医学研究院 (大学院研究組織)

- 中核研究部門  
脳・神経治療学研究講座  
呼吸・循環治療学研究講座  
消化器治療学研究講座  
生命機能治療学研究講座  
環境健康科学講座
- 先端研究部門  
先端がん治療学研究講座  
高次機能治療学研究講座  
未来医療グローバル治療学研究講座  
イノベーション治療学研究講座
- 総合医科学講座
- 連携講座  
精神神経科学連携講座  
医療行政学連携講座  
分子腫瘍生物学連携講座  
放射線防御機能学連携講座  
免疫制御学連携講座  
ゲノム医科学連携講座  
医療機器国際基準認証学連携講座  
国際粘膜免疫・病態制御学連携講座
- 寄附講座  
先端肺高血圧症医療学寄附講座  
不整脈先端治療学寄附講座  
近赤外画像診断学寄附講座  
先端脊椎関節機能再建医学寄附講座  
次世代型健康長寿ホルモアカデミー寄附講座
- 共同研究講座  
呼吸器疾患治療開発戦略講座
- 附属施設  
クリニカル・スキルズ・センター  
法医学教育研究センター  
超高齢社会研究センター  
国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター  
動物実験施設  
治療学人工知能 (AI) 研究センター  
バイオリソース教育研究センター

### 医学部 (学部教育組織)

- 医学科

### 薬学研究院 (大学院研究組織)

- 創成薬学研究部門  
創薬科学講座
- 生命薬学研究部門  
ゲノム創薬学講座  
環境生体科学講座
- 臨床薬学研究部門  
分子薬物治療学講座  
先端実践薬学講座

### 薬学部 (学部教育組織)

- 薬学科
- 薬科学科

# 病院組織機構図

## Hospital Organization Chart

• 病院長 …… 有識者懇談会

執行部会 …… 経営戦略会議  
運営会議 …… コミュニケーション戦略会議  
副病院長 …… 情報セキュリティ対策会議

病院長補佐  
病院長企画室  
病院法務室  
医療の質向上本部  
臨床研究推進本部  
病院広報室

診療科 ……

消化器内科 血液内科 腎臓内科 アレルギー・膠原病内科 糖尿病・代謝・内分泌内科 循環器内科 呼吸器内科 和漢診療科 感染症内科	腫瘍内科 心臓血管外科 食道・胃腸外科 肝胆膵外科 乳腺・甲状腺外科 呼吸器外科 麻酔・疼痛・緩和医療科 泌尿器科 救急科	整形外科 眼科 皮膚科 耳鼻咽喉・頭頸部外科 歯科・顎・口腔外科 形成・美容外科 リハビリテーション科 精神神経科 脳神経外科	脳神経内科 婦人科 周産期母性科 小児科 小児外科 放射線科 病理診断科 総合診療科
--	---	---	---

中央診療施設等 ……

検査部 手術部 放射線部 材料部 人工臓器部 集中治療部 輸血・細胞療法部 冠動脈疾患治療部 病理部 内視鏡センター リハビリテーション部	子どものころ診療部 フォトセンター 臨床工学センター 臨床腫瘍部 遺伝子診療部 Aiセンター 認知症疾患医療センター アレルギーセンター 周術期管理センター 患者支援センター 高齢者医療センター	糖尿病コンプリケーションセンター 緩和ケアセンター 包括的脳卒中センター 周産母子センター 肺高血圧症センター 認知行動療法センター プレストセンター 造血細胞移植センター 画像診断センター スポーツメディクスセンター
---	---	--

企画情報部  
医療安全管理部  
感染制御部  
臨床試験部  
地域医療連携部  
臨床栄養部  
総合医療教育研修センター  
東金九十九里地域臨床教育センター (東千葉メディカルセンター内)  
未来開拓センター  
国際医療センター  
臨床研究開発推進センター  
がんゲノムセンター  
メドテック・リンクセンター  
データセンター  
千葉大学柏の葉診療所  
成田赤十字病院肺がん治療センター  
病院経営管理学研究センター  
高齢社会医療政策研究センター  
薬剤部  
看護部  
事務部

# 附属施設紹介

## Introduction of Facilities

### クリニカル・スキルズ・センター (CCSC)

#### 日本最大規模の研修施設

全ての医療専門職者を対象に初歩から高度まで様々な医療技術を実際に経験して学習することができ、それにより医療の安全性と患者満足度を高め、患者中心の医療を実現することを目的とした施設です。実際の診療と比べ、シミュレーションではシナリオを工夫したり、難しい技術をパーツに分けるなどすることで学習者のレベルに合わせた難易度に設定して練習したり、滅多に起こらないような状況を再現して繰り返し練習することもできることから、着実なスキルアップを図ることができます。

CCSCはシミュレータを利用して教育・研修を行うシミュレーション・ラボ、模擬患者 (Simulated Patient, SP) が参加して教育・研修を行うパフォーマンス・ラボ、献体によるご遺体を利用して教育・研修を行うアナトミー・ラボと動物を使用して教育・研修を行うアニマル・ラボで構成されています。



### 法医学教育研究センター 日本を代表する法医学専門家の養成拠点

法医学教育研究センターは、法医学領域において高度に専門化した実務を行う医師、歯科医師、薬剤師、検査技師等を養成することを目的とし平成26年度に設置されました。

法医学は解剖を実施するだけの学問ではありません。死因を究明するためには、解剖の他に、薬物検査、画像検査、血液及び尿の生化学的検査、DNA検査や歯科所見の採取といった検査が必要になります。これら検査を実施するためには独特な経験や熟練を要し、生体

試料とは異なる精度管理が必要とされますが、日本においてはそうした人材を育成する環境が乏しい状況にあります。また、多くの国では法医学は死体解剖のみを実施するのではなく、虐待を受けた子供やDVの被害者等を診察し、最悪な状態となる前に保護する仕事も担っておりますが、日本においては一部の大学を除きそのような体制は整っておりません。本センターは、そうした状況から脱却すべく、法医学を6つの専門領域に分け、それぞれにおいて実務者、教育者、研究

者としてのキャリアパスを形成することで、専門家を継続的に養成し日本の法医学領域のレベルアップをはかるべく設置されました。

### 法医学診断学基幹6部門

各部門、教授1名、准教授1名、大学院生

法医学診断学基幹6部門の設置とそれによる教育、連携の強化（臨床法医学の創設等により法医学への関心を高める）法医学者としてのキャリアパスモデルの形成、学内での各科連携、学外諸機関との連携。

法病理学	法中毒学	法遺伝学	法歯科学	法医画像診断学	臨床法医学 (新規分野の創設)
<b>教育</b> 解剖実務・組織診断学教育 法医学医師・法医学技術専門員養成	<b>教育</b> 法医学中毒学教育 薬物分析者養成	<b>教育</b> 遺伝子学教育 遺伝子研究者養成	<b>教育</b> 法歯科学教育 法歯科学者養成	<b>教育</b> 法医画像診断学教育 法医画像診断医養成	<b>教育</b> 法医生体診察教育 (暴行・傷害・虐待) 法医学医師養成
<b>研究</b> 糸球体硬化度を用いた年齢推定方法に関する研究 各種体液分析による溺死の診断方法に関する研究 骨の計測による性別および身長推定方法の探求	<b>研究</b> 薬物血中濃度に代わる薬物中毒マーカーに関する研究 死後薬物再分布に関する研究 骨・歯からの薬物検出法に関する研究	<b>研究</b> DNA型検査による個人識別方法の探求 ヒト寄生物DNAを用いた出生地推定方法の開発 疾患遺伝子の法医学診断への応用	<b>研究</b> 歯牙含有アミノ酸分析による年齢推定方法の開発 放射性炭素を用いた出生年推定の研究 歯牙による個人識別方法の探求	<b>研究</b> 死後造影検査法の確立 内視鏡を用いた死後血管内検索法の開発 被虐待児の画像診断	<b>研究</b> 多機関連携による子供虐待防止に関する研究 統一的な傷害の重症度判定方法の探求

国民生活の安心・安全に資する多岐分野にわたる専門領域横断型法医学者

### 国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター

#### カリフォルニア大学サンディエゴ校との共同研究センター設置

千葉大学は、新しい学術領域である「粘膜免疫・アレルギー治療学」を創成し、そこから得られる理論・技術を感染症・がん・アレルギー等の次世代型粘膜ワクチンの開発に結びつける試みに取り組んでいます。この「病気にかからない予防ワクチン(次世代型粘膜ワクチン)」の開発と、本領域の次世代を担うグローバルな研究者の育成の拠点として、世界屈指の

粘膜免疫の研究者を有し、ノーベル賞受賞者を多数輩出するカリフォルニア大学サンディエゴ校と共同で、研究センターを平成28年4月に双方の大学内に設置しました。

本研究センターを中心に最先端の免疫疾患・感染症の新規予防・治療開発を推進し、世界規模での健康増進、生活の質の向上、医療費の削減を目指しています。



千葉大学の4研究室が設置されたUCSDのバイオメディカルリサーチビルディング

## 超高齢社会研究センター 健康長寿社会の実現を目指して

我が国は平成19年に高齢化率が21%を超え、超高齢社会に突入しました。その中でも屈指のスピードで高齢化が進んでいる本県は、日本のみならず世界の健康長寿社会のモデルになり得る可能性を秘めています。

医学研究院では、「先進加齢医学寄附講座」、「認知症疾患医療センター」、「千葉県寄附研究部門 高齢社会医療政策研究部」が設置されるなど、以前から超高齢社会の諸問題に対し組織的対応を続けてきました。それらの活動をさらに

発展させることを目的に、平成26年4月1日に大学院医学研究院超高齢社会研究センターが設立されました。

超高齢社会研究センターは、医学的アプローチを推進する「超高齢社会臨床部門」、社会科学的・自然科学的アプローチを推進する「超高齢社会疫学部門」の2つの部門から構成され、総合的に超高齢社会への対策を進めています。また、総合大学である本学の長所を生かし、各学部の高齢社会関連の研究室を始め、県内の自治体、関連職能団体、地元企

業、地域社会と協働し、医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現を目指します。

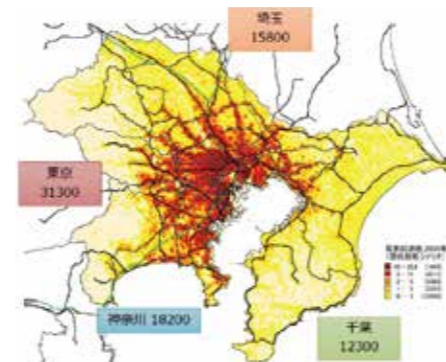
### 超高齢社会研究センター

総合治療 老年内科 (老年専門医) 医療政策研究 神経内科 (認知症専門医)

臨床部門	疫学部門								
<p>包括的高齢者医療 在宅医療 エンドオブライフ医学</p> <p>医学的アプローチ</p> <p>超高齢社会に対応するQOLと臓器横断的視点を重視した高齢者医療の開発・実践と教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学部附属病院各専門診療科</li> <li>臨床試験部製薬会社 (臨床研究中核病院)</li> <li>地域医療連携部総合医学教育センター (未来医療人材養成拠点)</li> </ul> <p>新薬開発 高齢者の在宅医療の 治療法開発 疾患予防と治療 実践と教育</p>	<p>医療・介護需要予測 地域疾患管理 社会システム再構築</p> <p>社会科学的・自然科学的アプローチ</p> <p>超高齢社会を考える総合的シンクタンクとして、医療政策に関する研究に加え、人材育成、啓発活動にも注力する。</p> <p>高齢化対策のハブ拠点化</p> <table border="1"> <tr> <td>千葉大学他学部</td> <td>高齢化関連研究室</td> </tr> <tr> <td>千葉県</td> <td>民間団体</td> </tr> <tr> <td>地域社会</td> <td>関連職能団体</td> </tr> <tr> <td>地方自治体</td> <td>地元企業NPO</td> </tr> </table>	千葉大学他学部	高齢化関連研究室	千葉県	民間団体	地域社会	関連職能団体	地方自治体	地元企業NPO
千葉大学他学部	高齢化関連研究室								
千葉県	民間団体								
地域社会	関連職能団体								
地方自治体	地元企業NPO								

高齢者医療の全ステージに“面”で対応できるシステム構築と人材の育成

医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現



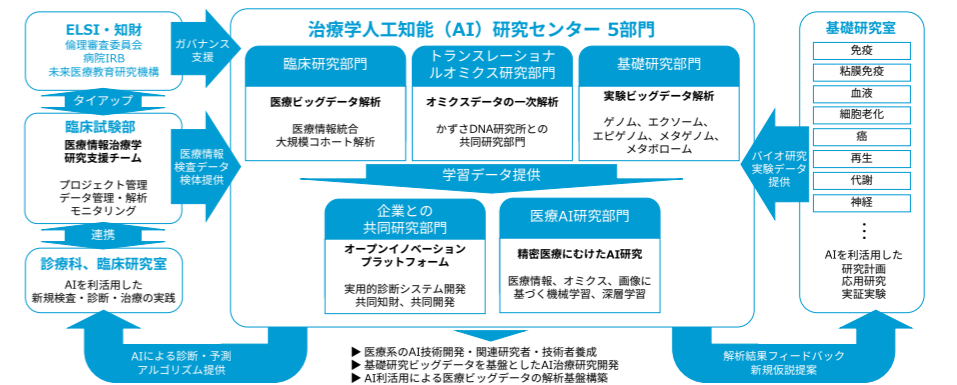
## 治療学人工知能 (AI) 研究センター 「AI 治療学」の創生

ビッグデータ、人工知能 (AI) の医療分野への応用は、政府の成長戦略等で喫緊の課題となっており、均質・高精度・膨大な処理能力持つAIの臨床医学研究、基礎医学研究への導入も必然となっている中、医学研究院では、平成30年4月に治療学人工知能 (AI) 研究センターを設立しました。

当センターは、①臨床研究部門、②トランスレーショナルオミックス研究部門、③基礎研究部門、④医療AI研究部門、⑤企業との共同研究部門の5部門で構成され、生命倫理審査委員会及び病院IRB (institutional review board: 治験審査委員会) と連携したELSI (Ethical Legal Social Issues) への十分な配慮、改正個人情報保護法に対応したAI拠点形成を目指しています。

本センターでは、本学の強みである免疫学、分子生物学、ゲノム医学を始めとする基礎医学研究において取得された実験ビッグデータと、附属病院を中心として培ってきた診断、治療に関する医療ビッグデータをリソースとして、医学・生物学と共に進化する人工知能 (AI) を開発します。また、基礎研究室と連携した仮説実証と再学習、及び臨床現場にお

ける実地利用を推進し、新学術領域である「AI治療学」を創生します。革新的な基礎研究の実施、精度の高い速やかな診断法の確立、全く新しい治療法の開発と創薬開発を行う医療研究拠点を形成すると共に、当該研究領域において次世代を担う研究者、医療者、技術者の育成を目指します。



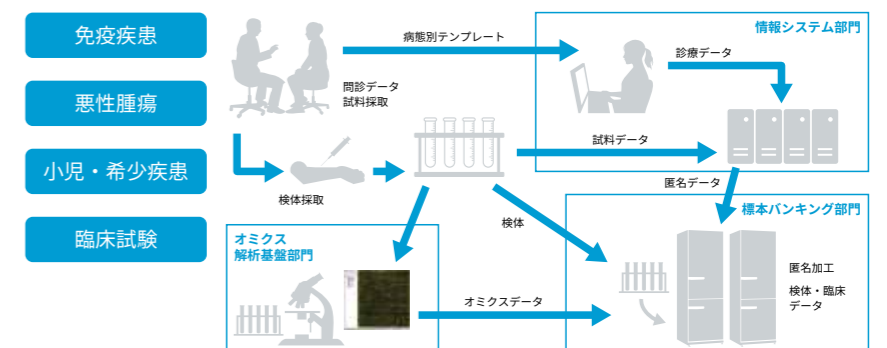
### バイオリソース教育研究センター 次世代型のバイオリソース・オミックス解析拠点

世界最高水準の平均寿命を達成した我が国において、いかに健康な長寿を達成するか、世界をリードする医療体制を確立するかは重要な課題であり、具体的には多様な治療実績やバイオリソースを共有し、またゲノム・エピゲノム情報など膨大なオミックス情報を取得・活用して革新的研究開発体制を構築し人材育成と知の強化を図ることが必要とされています。そこで医学研究院では創薬・診断薬等の研究開発・実用化を抜本的に加速・革新し、研究開発・育成環境を構築する基盤を形成するべく、平成30年4月にバイオリソース教育研究センターを設立しました。

センターは、臨床標本および臨床情報の取得・保存・提供体制、オミックス医療体制、新規医療開発において、産学連携

で各分野を強化しかつ人材育成を行う拠点となるべく、①オミックス解析基盤部門、②標本バンク部門、③情報システム部門、の3部門から構成されます。オミックス解析においては、千葉大・かずさゲノム医学イニシアチブを技術母体として、実績のある希少難病を含めて全国の症例を対象とする、多種・広範な臨床オミックス解析拠点を構築します。そして、

本学の強みである免疫疾患、小児・希少疾患、腫瘍疾患などにおいて、高品質な生体試料、臨床情報、オミックス情報を取得・保管・提供を行うバイオリソース拠点を形成し、各研究領域が進める革新的医療技術開発を支援するとともに、バイオバンクが全国・世界へ水平展開する中で次世代型バイオバンク構築のリーダー的拠点となることを目指しています。





## 役職員一覽

(平成31年1月1日現在)

役職名	氏名	期間
大学院医学研究院長 医学部長	中山 俊 憲	29. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院総括副研究院長・医学部総括副学部長(総務担当)	三 木 隆 司	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(総務担当)	丹 沢 秀 樹	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(総務担当)	下 条 直 樹	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(総務担当)	宇 野 隆	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(大学院教育担当・総務担当)	白 澤 浩	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(企画戦略担当)	齋 藤 哲 一 郎	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(企画戦略担当)	中 島 裕 史	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(企画戦略担当)	金 田 篤 志	30. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院副研究院長(広報・連携・国際化担当)	横 手 幸 太 郎	30. 4. 1 - 31. 3. 31
医学部副学部長(学部教育担当)	清 水 栄 司	30. 4. 1 - 31. 3. 31
医学部副学部長(学部入試担当)	諏 訪 園 靖	30. 4. 1 - 31. 3. 31
医学部副学部長(学部入試担当)	山 口 淳	30. 4. 1 - 31. 3. 31
医学部附属病院長	山 本 修 一	29. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学薬学府長	白 澤 浩	29. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学薬学府副学部長	伊 藤 素 行	29. 4. 1 - 31. 3. 31
教育研究評議会評議員	三 木 隆 司	29. 4. 1 - 32. 3. 31
教育研究評議会評議員(病院選出)	松 原 久 裕	29. 4. 1 - 32. 3. 31
副学長	中 山 俊 憲	29. 4. 1 - 31. 3. 31
副学長	山 本 修 一	29. 4. 1 - 31. 3. 31
経営協議会委員	中 山 俊 憲	29. 4. 1 - 31. 3. 31
経営協議会委員	山 本 修 一	29. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター長	中 山 俊 憲	30. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学研究院附属法医学教育研究センター長	岩 瀬 博 太 郎	30. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学研究院附属超高齢社会研究センター長	横 手 幸 太 郎	30. 1. 1 - 31. 3. 31
大学院医学研究院附属国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター長	中 島 裕 史	30. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学研究院附属治療学人工知能(AI)研究センター長	中 山 俊 憲	30. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学研究院附属バイオリソース教育研究センター長	金 田 篤 志	30. 4. 1 - 32. 3. 31
大学院医学研究院附属動物実験施設長	幡 野 雅 彦	29. 4. 1 - 31. 3. 31
大学院医学薬学府附属薬用資源教育研究センター長	高 山 廣 光	29. 4. 1 - 31. 3. 31
附属図書館亥鼻分館長	安 西 尚 彦	29. 4. 1 - 31. 3. 31

### 医学部管理・学内共同利用教育研究施設

役職名	氏名	期間
バイオメディカル研究センター長	幡 野 雅 彦	29. 4. 1 - 31. 3. 31
社会精神保健教育研究センター長	伊 豫 雅 臣	30. 4. 1 - 32. 3. 31
予防医学センター長	森 千 里	30. 4. 1 - 32. 3. 31
未来医療教育研究センター長	花 岡 英 紀	29. 4. 1 - 31. 3. 31
再生治療学研究センター長	江 藤 浩 之	30. 4. 1 - 32. 3. 31
子どものこころの発達教育研究センター長	清 水 栄 司	29. 4. 1 - 31. 3. 31
未来医療教育研究機構長	中 山 俊 憲	26. 7. 1 -

# 配置職員数

## 大学院医学研究院

(平成30年5月1日現在)

区分	教員					合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	
配置職員数	47	30	36	54	0	167

## 医学部

区分	その他職員						合計
	事務長	副事務長	専門員	係長・専門職員	主任・係員	技術職員	
配置職員数	1	1	3	4	13	17	39

## 学生定員・現員

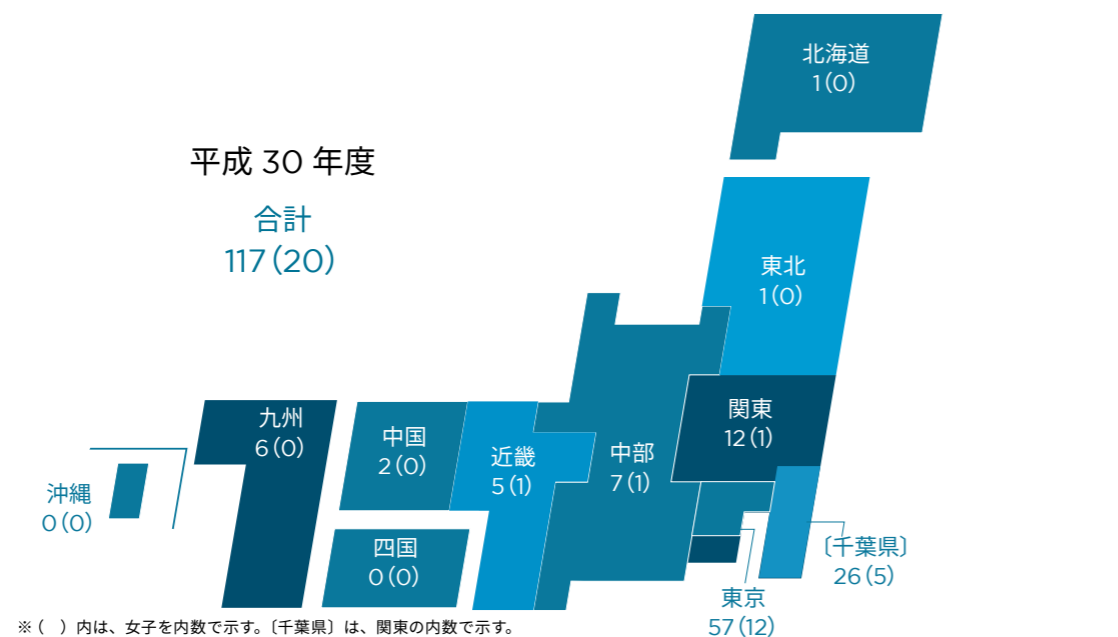
区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
定員	117	117	117 <5>	117 <5>	117 <5>	117 <5>	722 <20>
現員	120 [0] (20)	122 [0] (29)	117 [0] (31)	134 [1] (43)	125 [0] (31)	131 [0] (46)	749 [1] (200)

※ ( )内は、女子を内数で示す。< >は3年次編入定員を外数で示す。[ ]内は、私費外国人留学生を内数で示す。

## 入学状況

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
志願者数	前期 287 (91)	327 (102)	352 (110)	356 (104)	390 (105)	312 (82)
	後期 314 (99)	344 (92)	337 (93)	371 (100)	384 (85)	367 (73)
私費外国人	4 (4)	4 (1)	2 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)
入学者数	前期 99 (30)	101 (23)	97 (27)	100 (23)	97 (26)	100 (18)
	後期 18 (8)	17 (5)	20 (5)	19 (8)	19 (1)	17 (2)
私費外国人	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※ ( )内は、女子を内数で示す。



# 卒業生数及び卒業後の進路

## 学部卒業生

学部名	年度	明21~ 平24年度の計	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計
	前身学校		11					
第一高等学校		667						667
千葉医学専門学校		2,520						2,520
千葉医科大学		2,172						2,172
臨時医学専門部		752						752
医学部		5,942	102	98	118	128	100	6,488
合計		12,064	12,166	12,264	12,382	12,510	12,610	12,610

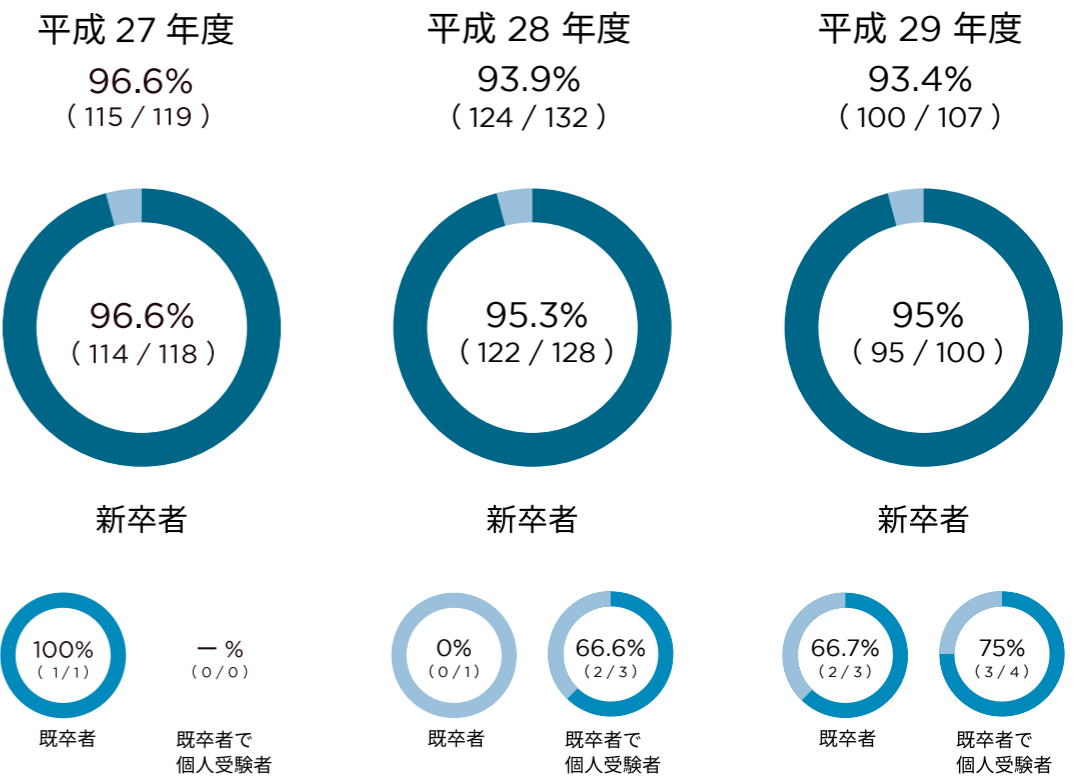
## 学部卒業生の進路

卒業年度	区分	卒業者数	臨床研修医			その他	備考
			千葉大学	他大学	その他の病院		
平成28年		128	2	5	106	7	未定(1年目)8
			13	7	92	7	未定(2年目)9
平成29年		100	3	6	84	7	未定(1年目)0
			15	9	65	7	未定(2年目)4

※上段は1年目を、下段は2年目を示す。

(平成30年3月31日現在)

# 医師国家試験受験状況 受験状況及び合格率



※ ( )内は、受験者数及び合格者数を示す。

(平成30年3月31日現在)

# 専攻及び入学状況

## 専攻

専攻	入学定員	現 員				
		1年	2年	3年	4年	計
先端医学薬学専攻	108	133 (32) [16]	128 (46) [14]	115 (29) [14]	127 (36) [10]	503 (143) [54]
先進予防医学共同専攻	10	11 (2) [0]	13 (7) [1]	12 (4) [0]	0 (0) [0]	36 (13) [1]

( )内は女子を内数で示す。[ ]内は外国人留学生を内数で示す。

## 入学状況

専攻	区分	募集人員	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
			志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
先端医学薬学	第1回入学試験	—	68 [4] (22)	64 [2] (19)	35 [0] (12)	33 [0] (12)	48 [1] (12)	47 [1] (11)	51 [1] (11)	48 [1] (11)	49 [4] (13)	45 [4] (11)	53 [3] (13)	50 [2] (12)
	第2回入学試験	—	68 [4] (14)	65 [4] (14)	86 [6] (28)	84 [5] (27)	52 [6] (20)	47 [5] (16)	66 [6] (13)	57 [6] (12)	61 [3] (23)	60 [3] (23)	59 [6] (14)	57 [6] (14)
	計	108	136 [8] (36)	129 [6] (33)	122 [7] (41)	118 [7] (40)	100 [7] (32)	94 [6] (27)	112 [6] (24)	105 [6] (23)	110 [7] (36)	105 [7] (34)	112 [9] (27)	107 [8] (26)
先進予防医学								13 [0] (4)	12 [0] (4)	13 [1] (6)	13 [1] (6)	11 [0] (2)	11 [0] (2)	

※各入学試験については、4月入学及び10月入学の合計数。志願者数及び入学者数は医学領域のみ。  
[ ]内は、外国人留学生を内数で示す。( )内は、女子を内数で示す。

# 専攻・コース及び入学状況

## 専攻・コース等

専攻・コース	授業科目名	入学定員	1年	2年	計
医科学専攻					
基礎医科学	先端生命科学、生体防御医学				
展開医科学	薬物療法情報学、臨床医科学、先端治療学	27	29	26	55
社会医学	公衆衛生学、遺伝情報応用学、臨床精神心理学、環境健康科学、肉眼解剖学、サステイナブル環境健康科学				

## 入学状況

専攻	募集人員	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
医科学	27	31 [1] (15)	27 [1] (14)	37 [5] (18)	23 [5] (15)	33 [2] (12)	29 [1] (10)

※[ ]内は、外国人留学生を内数で示す。( )内は、女子を内数で示す。入学試験の募集人員は27名、授業科目並びに担当教員。

# 修了生数及び卒業後の進路

## 大学院修了生

研究科名	年度	明33～	平成	平成	平成	平成	平成	平成	平成	合計	
		平21年度の計	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		29年度
医学研究科		1,535	—	—	—	—	—	—	—	1,535	
医学薬学府 4年博士課程		666	99 (27)	104 (26)	96 (25)	109 (23)	126 (37)	129 (39)	109 (29)	113 (36)	1,571
合計		2,201	99 (27)	104 (26)	96 (25)	109 (23)	126 (37)	129 (39)	109 (29)	113 (36)	3,106

※( )内は、女子を内数で示す。

## 大学院(博士)修了生の進路

終了年度	区分	卒業生数	病 院 医 師				研究職	留学	研究生	教員	その他
			千葉大学	他 大 学	県内病院	県外の病院					
平成25年		109	22	3	30	11	14	7	1	4	17
平成26年		126	26	4	39	19	10	5	5	3	15
平成27年		129	30	3	34	15	13	5	0	2	27
平成28年		109	28	5	31	14	4	7	0	7	13
平成29年		113	33	6	30	14	15	5	0	1	9

## 大学院(修士)修了生の進路

終了年度	区分	卒業生数	研究職	教員	進学	その他
平成25年		30	1	0	9	20
平成26年		24	0	3	2	19
平成27年		25	0	1	11	13
平成28年		25	0	0	11	14
平成29年		26	2	0	2	22

# 学位授与数

年度	区分	課程修了によるもの		論文提出によるもの	合計
		旧制学位	新制学位		
大正4年～昭和35年		—	—	2,590	2,590
昭和33年～平成7年		819	—	1,472	2,291
平成8年～平成19年		1,169	—	456	1,625
平成20年		98	—	8	106
平成21年		115	—	6	121
平成22年		99	—	6	105
平成23年		104	—	9	113
平成24年		96	—	5	101
平成25年		109	—	4	113
平成26年		126	—	4	130
平成27年		129	—	7	136
平成28年		109	—	2	111
平成29年		113	—	2	115
合計		3,086	—	4,571	7,657



収入

(平成30年5月1日現在)  
(単位:円)

科目	年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	備考
1. 自己収入及び一般運営費交付金		552,857,304	966,071,612	631,887,163	
2. 補助金収入		725,650,403	355,601,096	289,349,748	科学研究費補助金を除く
3. 産学連携等収入		715,036,330	890,246,582	1,008,921,821	受託研究・共同研究・委託事業・共同事業
4. 寄附金収入		670,497,093	750,920,011	663,777,429	
合 計		2,664,041,130	2,962,839,301	2,593,936,161	

※収入科目は、医学部に関連する 4 科目を計上。

支出

(平成30年5月1日現在)  
(単位:円)

科目	年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	備考
1. 業務費		552,857,304	965,969,708	631,051,581	
2. 補助金経費		725,650,403	355,601,096	289,349,748	科学研究費補助金を除く
3. 産学連携等経費		671,814,821	808,516,892	942,042,840	受託研究・共同研究・委託事業・共同事業
4. 寄附金経費		692,710,927	568,984,960	553,082,436	
合 計		2,643,043,455	2,699,072,656	2,415,526,605	

科学研究費補助金獲得状況

科目	27 年度		28 年度		29 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
新学術領域	35	205,500,000	59	357,855,000	56	354,291,000
特定領域研究	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (S)	2	72,700,000	11	98,625,000	11	82,250,000
基盤研究 (A)	21	154,850,000	65	255,191,000	65	256,641,000
基盤研究 (B)	111	391,900,000	232	528,507,000	256	558,627,000
基盤研究 (C)	382	435,000,000	506	572,164,000	517	564,747,000
挑戦的萌芽研究	95	116,300,000	117	137,204,000	65	60,506,000
挑戦的研究 (萌芽)	19	25,300,000	17	23,800,000	10	11,800,000
若手研究 (S)	0	0	0	0	0	0
若手研究 (A)	7	36,700,000	8	56,676,000	6	42,320,000
若手研究 (B)	150	166,200,000	160	225,418,000	178	274,051,000
研究活動スタート支援	24	24,700,000	18	23,457,000	1	16,174,000
特別研究員奨励費	66	62,873,616	66	66,246,000	69	67,091,000
奨励研究	18	9,500,000	15	7,368,000	13	6,449,000
研究成果公開促進費	0	0	4	5,500,000	1	1,200,000
国際共同研究加速基金 (国際活動支援班)	0	0	11	36,959,000	11	53,176,000
合 計	911	1,676,233,616	1272	2,371,170,000	1278	2,414,028,000
	154	328,473,616	160	352,950,000	180	400,064,302

※上段は大学全体の採択実績数、下段は大学院医学研究院の採択実績数を示す。

単位:円



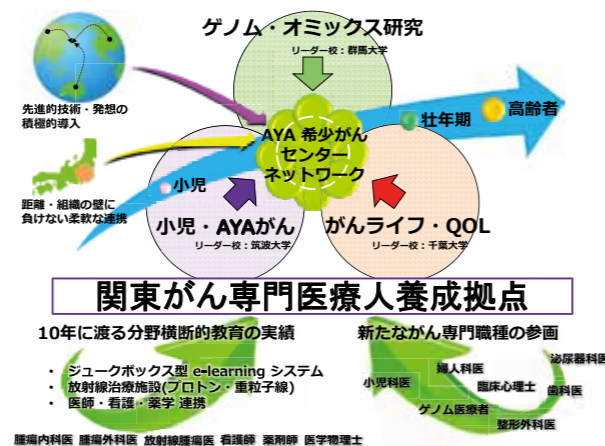
PROJECT

## Introduction of Primary Research

多様な新ニーズに対応する  
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン  
[平成29年度大学教育再生戦略推進費]

事項	内容
事業名称	関東がん専門医療人養成拠点
実施体制	筑波大学、千葉大学、群馬大学、日本医科大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、星薬科大学、昭和大学
責任者	瀧口 裕一（大学院医学研究院臨床腫瘍学・教授）
実施期間	平成29年度～平成33年度
補助金額 (共同実施大学合計)	平成24年度 166,000,000円 平成25年度 166,000,000円 平成26年度 162,300,000円 平成27年度 143,308,000円 平成28年度 130,195,000円 平成29年度 131,900,000円 平成30年度 101,818,000円

- がんゲノム医療人養成コース
- 小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース
- 包括的ライフステージサポート医療人養成コース
- 関東がん専門医療人養成拠点



先進予防医学共同大学院の設置 — 次世代へ健康をつなぐスーパー予防医科学 —  
[国立大学改革強化推進事業]

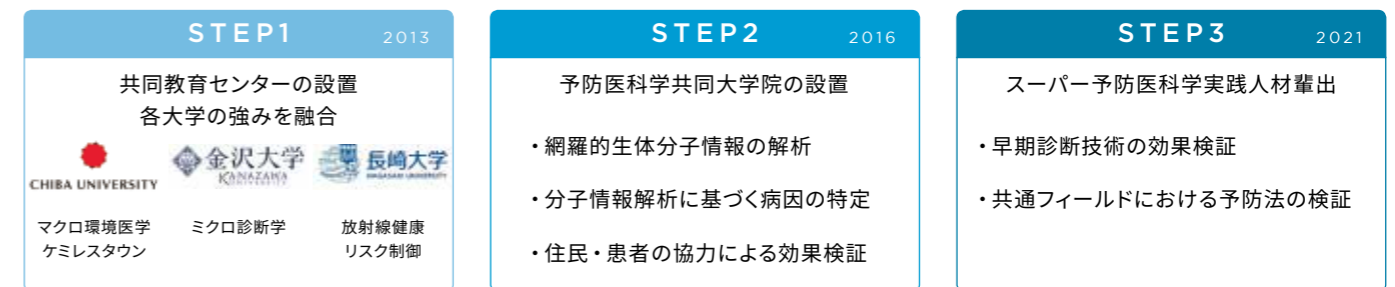
事項	内容
事業名称	真の疾患予防を目指したスーパー予防医学に関する3大学（千葉・金沢・長崎）先進予防医学共同大学院の設置
実施体制	千葉大学、金沢大学、長崎大学
責任者	森 千里（大学院医学研究院環境生命医学・教授、予防医学センター・センター長）
実施期間	平成24年度～
補助金額	平成24年度 689,680,000円 平成25年度 370,940,000円 平成26年度 285,740,000円 平成27年度 189,375,000円 平成28年度 191,040,000円 平成29年度 174,276,000円 平成30年度 174,276,000円 ※平成24～27年度は補助金。平成28年度～は運営費交付金。

3大学（千葉・金沢・長崎）革新予防医科学共同大学院の設置

次世代へ健康をつなぐスーパー予防医科学  
～22世紀へ向けて、健康で豊かな長寿命社会を実現する医学の構築～

誰もが健康で豊かな生活を送るための新たな予防が必要。0次予防・環境改善型予防医学の実践

- ・歯止めの利かぬ医療費の増加
- ・生活習慣病、免疫疾患、精神・神経疾患に伴う社会的損失の増大
- ・疾患の慢性化による罹患者のQOL低下

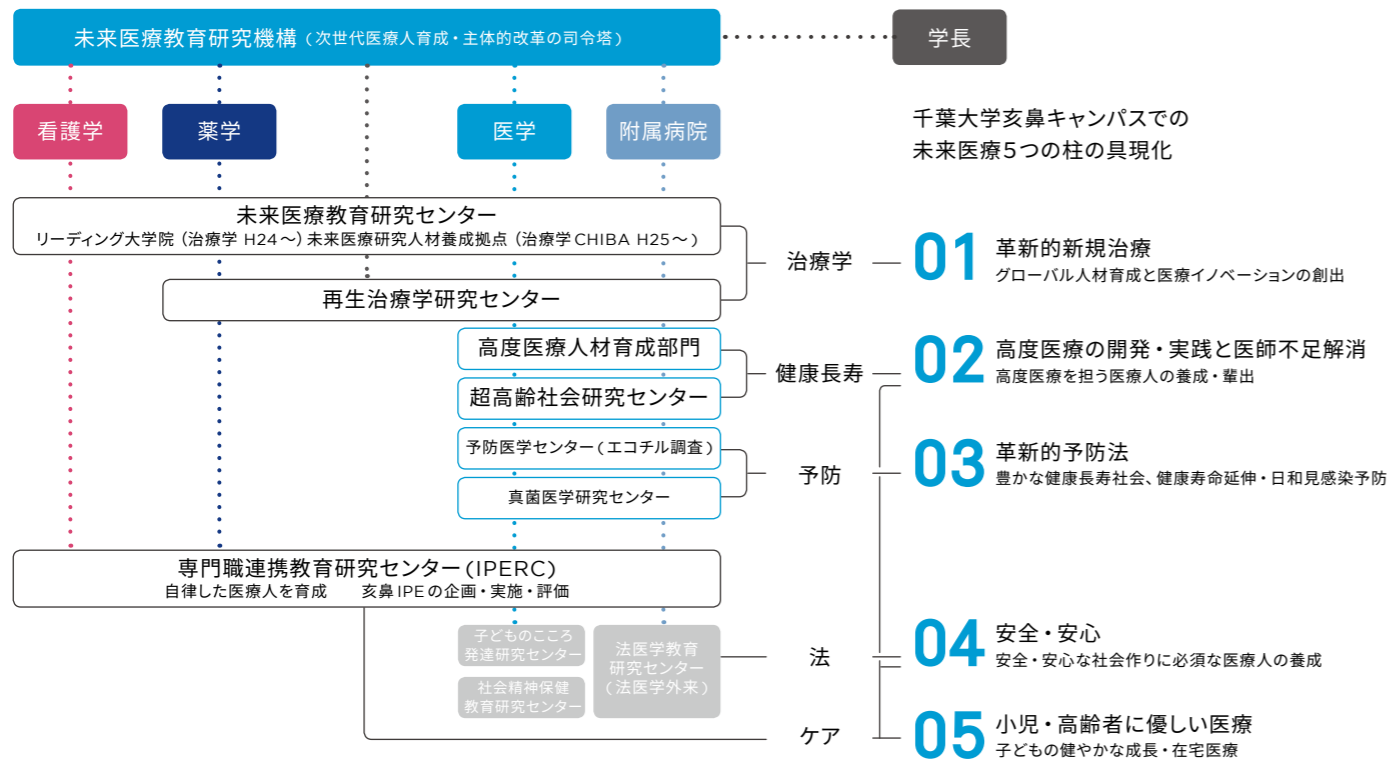


大学連携の拡大と日本発新たな予防の国際標準化へ  
健康・医療・環境に関する地球規模の課題を解決に導く人間性豊かな人材の育成・輩出  
国民のQOL向上・医療費の大幅な削減

世界を牽引する「スーパー予防医科学」  
教育研究拠点形成

亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた  
未来医療研究拠点形成 — 「治療学」創成と未来医療研究拠点形成 —

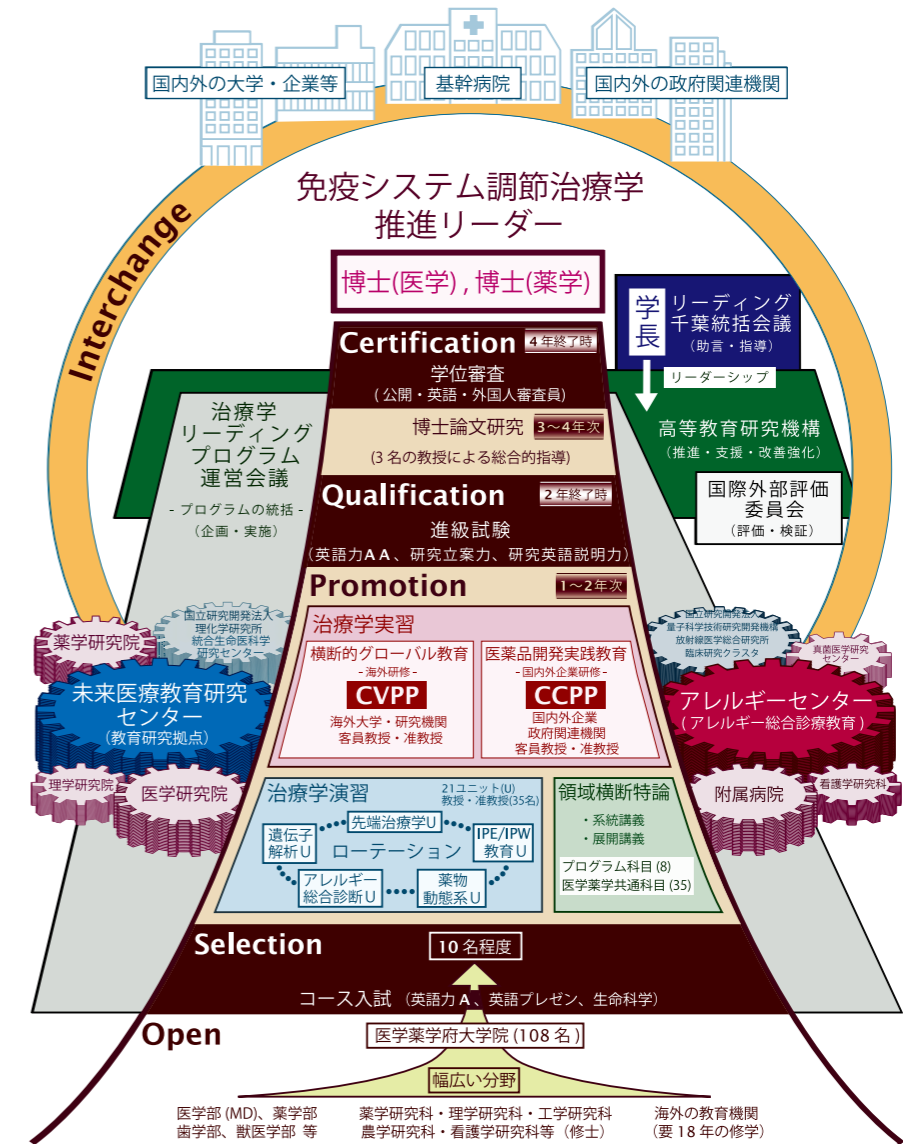
事項	内容
事業名称	亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
実施体制	千葉大学
責任者	中山 俊憲 (未来医療教育研究機構長)
実施期間	平成25年度～平成33年度
補助金額	平成25年度 710,442,000円 平成26年度 554,500,000円 平成27年度 377,060,000円 平成28年度 304,664,000円 平成29年度 304,664,000円 平成30年度 324,067,000円 ※平成25～27年度は補助金。平成28年度～は運営費交付金。



博士課程教育リーディングプログラム — 難治療の免疫関連疾患に特化した「治療学」の推進リーダー養成 —  
(研究拠点形成費等補助金 (リーディング大学院構築事業費))

事項	内容
プログラム名称	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム Nurture of Creative Research Leaders in Immune System Regulation and Innovative Therapeutics
事業推進担当者	・全体責任者 (千葉大学長) 徳久 剛史 ・プログラム責任者 中山 俊憲 ・プログラムコーディネーター 斎藤 哲一郎 ・サブプログラムコーディネーター 荒野 泰、岡本 美孝、本橋 新一郎 ・プログラム担当者 (千葉大学) 中山 俊憲、斎藤 哲一郎、荒野 泰、岡本 美孝、本橋 新一郎、川瀬 貴之、丹沢 秀樹、山口 直人、西田 篤司、瀧口 正樹、松原 久裕、岡田 忍、酒井 郁子、羽田 明、森 千里、横手 幸太郎、花岡 英紀、米山 光俊、下条 直樹、中島 裕史、松江 弘之、三木 隆司、齊藤 和季、高山 廣光、遠藤 剛、石川 裕之、金田 篤志、田村 裕、坂根 郁夫、村田 武士、真鍋 一郎、池原 譲、八木 良二 (その他) 笹川 千尋、鎌田 正、山田 滋、古関 明彦、小原 収、谷内 一郎、石川 文彦、小泉 信一、河野 剛志、山下 徹、小田 吉哉、関 信男、一川 隆史、Steven F. Ziegler、Andreas Radbruch、Alfred Singer、Mitchell Kronenberg、Dale T. Umetsu、Björn Christer Betsholtz、Lena Claesson-Welsh
事業期間	平成24年度～平成30年度 (原則7年間)
補助金額	平成24年度 149,100,000円 平成25年度 268,380,000円 平成26年度 204,859,000円 平成27年度 221,107,000円 平成28年度 231,559,000円 平成29年度 195,614,000円 平成30年度 136,147,000円

免疫システム調節治療学推進リーダー



本学位プログラムにより期待される効果



基礎研究医養成活性化プログラム  
[平成29年度大学教育再生戦略推進費]

事項	内容
事業名称	病理・法医学教育イノベーションハブの構築
実施体制	千葉大学、群馬大学、山梨大学
責任者	池原 譲（大学院医学研究院腫瘍病理学・教授）
実施期間	平成29年度～平成33年度
補助金額 (共同実施大学合計)	平成29年度 20,000,000円 平成30年度 15,000,000円

病理・法医学教育イノベーションハブの構築



各施設の強みを生かした病理医・法医の育成体制

群馬大学	千葉大学	山梨大学
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒前卒後のMD-PhD一貫コース法医学AIセンター</li> <li>・県内の関連病院を網羅した病理診断科研修プログラム</li> <li>・世界的な脳腫瘍病理の研究施設</li> <li>・教育研究支援センター</li> <li>・未来先端研究機構オミックス医学研究プログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富な症例数</li> <li>・OJTと修了後の候補地（市中病院）のバリエーション</li> <li>・法医学教育研究センター</li> <li>・千葉大学フロンティア医工学研究センター</li> <li>・先端病理解析技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病理・法医学連携による双方向教育プログラム</li> <li>・学部生からの病理・法医学研究者早期養成</li> <li>・全学的CPCでの剖検症例検討</li> <li>・脳神経系病理への専門性の高さ</li> <li>・陳旧・変性・微量試料からの病原体検出および個人識別技術</li> </ul>

課題解決型高度医療人材養成プログラム  
[平成30年度大学教育再生戦略推進費]

事項	内容
事業名称	メンタル・サポート医療人とプロの連携養成
実施体制	千葉大学
責任者	清水 栄司（大学院医学研究院認知行動生理学・教授）
実施期間	平成30年度～平成34年度
補助金額	平成30年度 25,000,000円

千葉医学のミッション	千葉医学のメンタル領域「治療学」の強み	県内ネットワークの実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部、薬学部、看護学部合同による多職種連携教育（IPE）によるチーム医療人養成</li> <li>・学習成果基盤型教育（OBE）</li> <li>・文学部心理学科、教育学部と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難治性精神疾患の生物学的治療に関する先進的教育研究拠点 精神医学、精神神経科、こどものこころ診療部、社会精神保健教育センターの教員陣</li> <li>・心理学的治療である認知行動療法の先進的教育研究拠点 認知行動生理学、認知行動療法センター、子どものこころの発達教育研究センターの教員陣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドパミン過感受性精神薬の治療、精神科救急等に関する県内精神科専門病院とのネットワーク</li> <li>・2010年から、精神科医、心理職等向けの強迫、不安、慢性うつ、自閉スペクトラム等の重症患者への高強度（週1回50分16週）の認知行動療法士コースを立ち上げ、8年間で100人を超える人材養成</li> </ul>

日本のメンタルヘルスの課題

- ・最近15年間で精神疾患の患者は200万人から390万人へと倍増（平成26年度患者調査）した一方、精神疾患を有する約4分の3の地域住民が未受診（世界精神保健日本調査、2016）
- ・メンタルの問題に対応可能な医療体制が十分とは言えない

現場のニーズ

- メンタル領域の専門と一般の機能分担を加速させるために、
- ・精神科専門医は難治者用の高度な知識・スキルを、
  - ・一般医療のかかりつけ医師、歯科医師、薬剤師、看護師等は軽症者用の基本的なこころの支援スキルを身に着ける必要性

課題解決

一般医療者（メンタル・サポート医療人）と精神科専門職（メンタル・プロフェッショナル）を連携養成するプログラムを開発

①メンタル・サポート医療人（メンサポ）養成インテンシブ（ボトムアップ）コース

②メンタル・プロフェッショナル（メンプロ）養成本科（フロンティア）コース

## ①メンタル・サポート医療人（メンサポ）養成インテンシブ（ボトムアップ）コース

- ・一般医療の現場で日常的に遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、心身症、認知症、薬物・アルコール、ギャンブル依存症等を持つ患者および家族への対応
- ・簡易（低強度）の認知行動療法的アプローチ
- ・英国のPsychological Wellbeing Practitioner（PWP）制度を参考に軽症者の向精神薬依存や難治化を防ぐ

【対象】	科目等履修生(4単位)、コース選択希望者：内科、小児科等の医師、産業医、歯科医師、看護師、助産師、保健師、薬剤師、コメディカル、介護職等
【募集人数】	毎年18名
【修業年限】	1年（延長可）
【学習内容】	メンタル問題の把握（1コマ）、質問紙による症状評価（1コマ）、セルフヘルプをガイドする低強度（月1回30分計6回）の認知行動療法的アプローチ（心理教育、認知行動モデルと再構成等）、症状改善の判断と専門医への紹介（1コマ）等



### チーム医療

メンサポとメンプロとの連携養成と交流のための症例検討会（エクセルシオール演習）

## ②メンタル・プロフェッショナル（メンプロ）養成本科（フロンティア）コース

### 精神科専門医療での難治性疾患を持つ患者および家族への対応

【対象】	博士課程大学院生：医師
【募集人数】	毎年3名【修業年限】4年（3年修了あり）
【学習内容】	生物-心理-社会モデルに基づく、グローバルな観点からの難治性精神疾患（統合失調症、双極性障害、依存症等）の適切な鑑別診断、適正な薬物療法

### 評価指標

- ・プロセス評価（受講者の満足度）
  - ・アウトカム評価（患者の症状改善スコア）
- データベース化し、より良いプログラムへ発展

## 運営・連携体制

### 講義・演習をWEB上に録画配信し、職場や自宅で好きな時間に受講できるシステムの構築

各診療科、各職種の教員、コーディネーター（学外の医療人）とTeaching Assistant（大学院生）がきめ細かく内容を説明し、履修生を指導（関係者会議で連携）

### 連携先（千葉県庁、公衆衛生としてのメンタルヘルス増進）

公衆衛生医師、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、プライマリケア医、「子どもの心」相談医、産業医、保健師、助産師、精神科専門医、精神科認定看護師、精神科専門薬剤師など

### 外部評価委員会

患者家族会、自治体、地域の医療機関、履修生（学生）、専門家による

### メンタル・フォーラム

千葉県内⇒関東圏⇒全国の医療機関へ普及するために、本プログラムの内容を広く公開



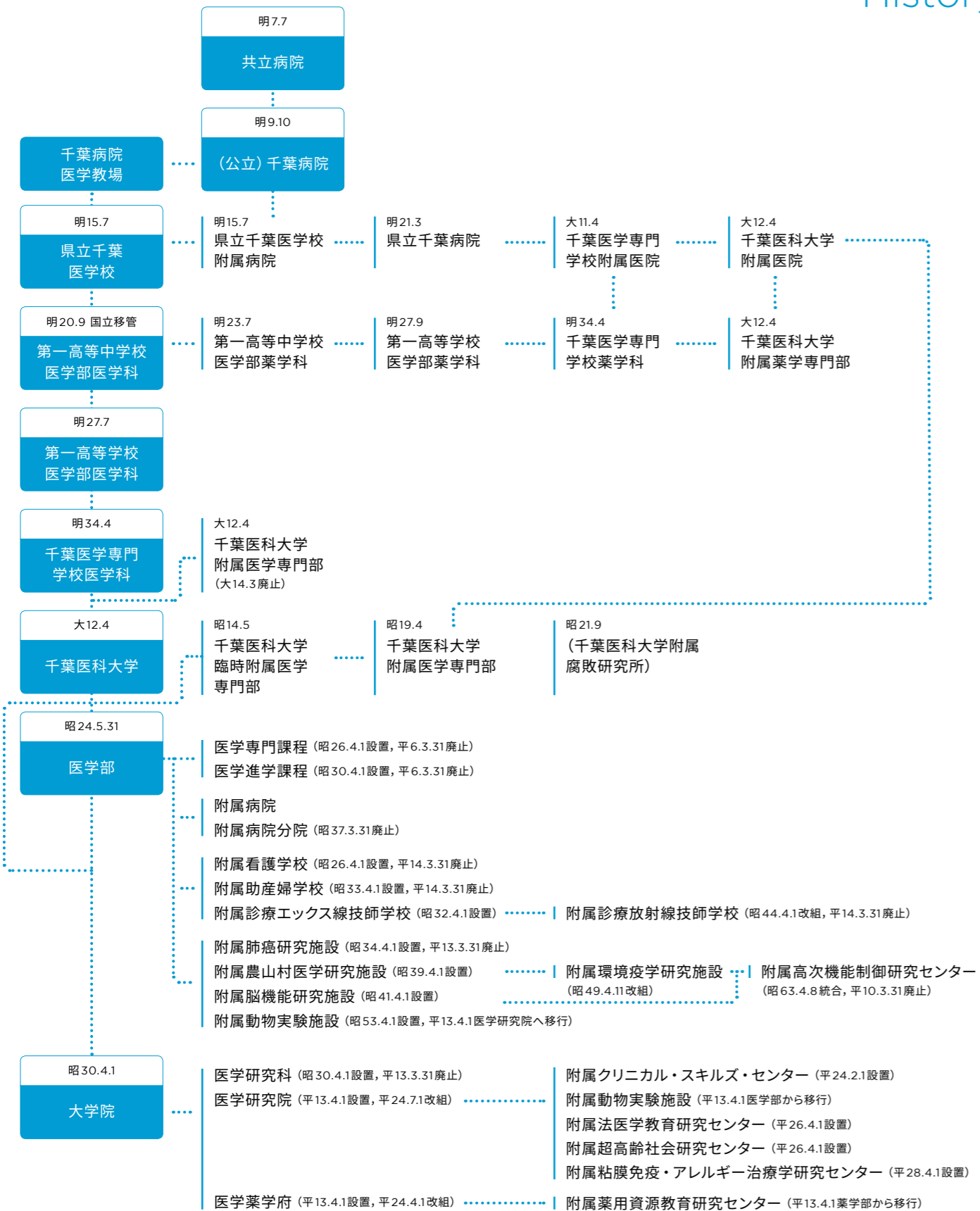
### 千葉から日本へ発信

学会の認定制度とし、普及と定着を目指す

# HISTORY

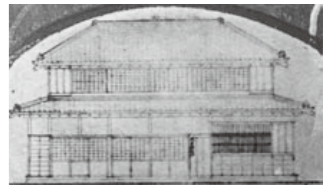
# 沿革図

## History



### 明治

- 7年 7月 千葉町、寒川村、登戸村の有志の醸金により共立病院が設立された。
- 9年 10月 公立千葉病院と改称され、医学教場が付設された。
- 15年 7月 同病院が改組されて県立千葉医学校及び附属病院が設置された。
- 20年 9月 高等学校校令の施行に伴い県立千葉医学校は官立に移管されて第一高等学校医学部となった。
- 21年 3月 県立千葉医学校附属病院が県立千葉病院と改称された。
- 27年 7月 高等学校校令の施行に伴い第一高等学校医学部となった。
- 34年 4月 千葉医学専門学校と改称した。



共立病院



県立千葉病院

### 大正

- 11年 4月 県立千葉病院が千葉医学専門学校附属病院となった。  
看護婦講習所、産婆講習所が設置された。
- 12年 4月 官立医科大学官制改正により千葉医学専門学校は千葉医科大学に昇格した。  
(基礎8講座・臨床11講座、入学定員60名・修業年限4年)  
同時に千葉医学専門学校附属病院は、千葉医科大学附属病院と改称された。  
また、千葉医科大学附属医学専門部と附属薬学専門部が置かれた。
- 14年 3月 千葉医科大学附属医学専門部が廃止された。



千葉医科大学本館

### 昭和

- 5年 4月 千葉医科大学の入学定員が80名となった。
- 12年 8月 附属病院新館が完成し移転した。
- 14年 5月 千葉医科大学臨時附属医学専門部が設置された。
- 19年 4月 千葉医科大学臨時附属医学専門部が千葉医科大学附属医学専門部と改称された。
- 20年 4月 千葉医科大学附属病院厚生女学部が設置された。
- 21年 9月 千葉医科大学に附属腐敗研究所が設置された。
- 24年 5月 国立学校設置法が公布され、千葉大学が設置された。  
千葉医科大学を母体として医学部が置かれ、同時に千葉医科大学附属病院は医学部附属病院となった。(基礎12講座・臨床10講座)
- 26年 4月 医学専門課程が置かれた。厚生女学部が附属看護学校となった。
- 28年 4月 公衆衛生学講座が設置された。
- 29年 4月 整形外科学講座、放射線医学講座が設置された。
- 30年 4月 医学進学課程が設置された。  
大学院医学研究科(博士課程)が設置された。
- 31年 4月 医動物学講座が設置された。
- 32年 4月 附属診療エックス線技師学校が設置された。



附属病院新館

- 33年 4月 附属助産婦学校が設置された。
- 34年 4月 附属肺癌研究施設（臨床研究部）が設置された。
- 35年 4月 泌尿器科学講座が設置された。  
医動物学講座が寄生虫学講座と改称された。
- 37年 4月 歯科口腔外科学講座が設置された。
- 39年 3月 医学部創立85周年を記念した、医学部記念講堂が竣工した。
- 4月 附属農山村医学研究施設（農山村予防医学研究部）が設置された。  
麻酔学講座が設置された。
- 40年 4月 入学定員20名増加し、定員が100名となった。  
附属肺癌研究施設に病理研究部が設置された。
- 41年 4月 附属脳機能研究施設（向神経薬研究部）が設置された。  
附属診療エックス線技師学校上級課程が設置された。
- 42年 4月 生化学第二講座が設置された。
- 43年 4月 附属肺癌研究施設に第二臨床研究部が設置された。
- 44年 4月 附属診療エックス線技師学校が附属診療放射線技師学校に改組された。
- 45年 4月 脳神経外科学講座が設置された。
- 46年 3月 附属図書館亥鼻分館が設置された。
- 49年 4月 内科学第三講座が設置された。  
入学定員20名増加し、定員が120名になった。  
附属農山村医学研究施設が附属環境疫学研究施設（農村医学研究部及び免疫研究部）に改組された。
- 52年 4月 附属脳機能研究施設に神経内科研究部が設置された。
- 53年 2月 新附属病院が建設され移転した。
- 4月 附属動物実験施設が設置された。
- 54年 4月 向神経薬研究部（附属脳機能研究部）が神経薬理研究部と改称された。
- 55年 8月 医学部が旧附属病院建物に移転、同建物は医学部本館となった。
- 56年 4月 微生物学第二講座が設置された。
- 57年 4月 神経精神医学講座が精神医学講座と改称された。
- 9月 附属動物実験施設が竣工した。
- 58年 3月 亥鼻地区体育館が竣工した。  
亥鼻地区サークル会館（旧精神科病棟を改修）が完成した。
- 62年 4月 入学定員が20名減となり、定員が100名となった。
- 5月 附属脳機能研究施設に神経生理研究部門（時限10年）が設置された。
- 63年 4月 附属環境疫学研究施設及び脳機能研究施設を拡充改組し、附属高次機能制御研究センター（時限10年）が設置された。  
神経内科学講座（部門の転換）が設置された。



新附属病院



附属動物実験施設

## 平成

- 2年 6月 小児外科学講座が設置された。
- 5年 4月 臨床検査医学講座が設置された。
- 6年 3月 医学専門課程、医学進学課程が廃止された。
- 6月 救急医学講座が設置された。
- 8年 7月 附属図書館亥鼻分館新館が竣工した。
- 10年 4月 附属高次機能制御研究センターが廃止され、大学院医学研究科に高次機能系専攻（独立専攻）が設置された。  
遺伝子病態学（ノボノルディスクファーマ）寄附講座が設置された。（～15年3月）
- 9月 分子免疫学（大正製薬）寄附講座が設置された。（～14年3月）
- 12年 4月 学士入学（3年次編入学MD－PhDコース）制度（定員5名）が導入された。
- 13年 3月 大学院医学研究科が廃止された。附属肺癌研究施設が廃止された。
- 4月 大学院医学研究院（6研究部門13講座60研究領域（形成外科学、肝胆膵重粒子線治療学、頭頸部腫瘍学、眼科重粒子線治療学、泌尿器科腫瘍重粒子線治療学、神経疾患重粒子線治療学、基礎病態学、婦人科腫瘍重粒子線治療学、免疫細胞医学、分子統合生理学、臨床遺伝子応用医学、分子腫瘍学、脳機能学を新たに設置された。）1連携講座を含む。）、大学院医学薬学府（4年博士課程3専攻、後期3年博士課程1専攻、修士課程2専攻）が設置された。  
医学部附属動物実験施設が大学院医学研究院附属動物実験施設へ移行された。
- 4月 薬学部附属薬用資源教育センターが大学院医学薬学府附属薬用資源教育センターへ移行された。医学部は講座制を廃止し、学科目制に変更された。
- 9月 大学院医学研究院にSRL環境健康医学寄附講座が設置された。（～16年12月）
- 10月 大学院医学研究院に治療探索研究（興和）寄附講座が設置された。（～19年9月）
- 14年 1月 大学院医学研究院に機能ゲノム学寄附講座が設置された。（～17年3月）
- 3月 附属看護学校、附属助産婦学校、附属診療放射線技師学校が廃止された。
- 15年 9月 平成15年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点形成費により、「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」が採択された。
- 16年 3月 医学部勝山セミナーハウス（旧医学部臨海実験所（勝山寮））が1棟新営された。
- 4月 千葉大学医薬系総合研究棟地下1階、地上10階が竣工し、8階9階に大学院医学研究院を母体として「千葉大学バイオメディカル研究センター」が設置された。  
国立大学法人法の施行により、国立大学は各大学ごとに法人化され、国立大学法人千葉大学が設立された。
- 7月 千葉大学医薬系総合研究棟が4月に竣工したのを受け、記念式典、祝賀会が執り行われた。
- 11月 大学院医学研究院に心血管病態解析学寄附講座（～22年10月）及び遺伝子治療寄附講座が設置された。（～21年10月）
- 17年 4月 大学院医学薬学府に医学系の修士課程「医科学専攻（20名）」が設置された。  
大学院医学研究院を母体として「千葉大学社会精神保健教育研究センター」が設置された。  
大学院医学研究院環境・高齢健康科学研究部門に研究領域としてあらたに和漢診療学が設置された。  
大学院医学研究院において、連携講座として病態制御研究部門に分子腫瘍生物学、生体情報臨床医学研究部門に放射線防御機能学が設置された。
- 5月 大学院医学研究院に先端和漢診療学寄附講座（ツムラ）が設置された。（～23年4月）



附属図書館亥鼻分館新館



千葉大学医薬系総合研究棟



17年 7月 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに機能ゲノム学が設置された。平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム」大学改革推進等補助金により、「診断能力向上をめざす臨床医学教育の取組み」が採択された。

10月 平成17年度「『魅力ある大学院教育』イニシアティブ」研究拠点形成費等補助金により、「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」が採択された。

18年 1月 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに生命情報科学と臨床診断学が設置された。

4月 医学部に医学教育を専任で担当する医学教育研究室が設置された。大学院医学研究院発生・再建医学研究部門に連携講座として免疫制御学が設置された。

19年 5月 大学院医学研究院に先端腫瘍治療医学研究部門臨床腫瘍学講座が設置された。

6月 柏の葉キャンパス地区に「千葉大学予防医学センター」が設置された。

7月 大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに疾患生命医学が設置された。大学院医学研究院にがん分子免疫治療学（テラ）寄附講座が設置された。（～22年3月）平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」大学改革推進等補助金により、「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」が採択された。（～24年3月）

9月 平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」研究拠点形成費等補助金により、「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」が採択された。

10月 亥鼻キャンパス内に千葉大亥鼻イノベーションプラザが医療系 大学連携型起業家育成施設としては日本で初めて大学内に設置された。

20年 4月 医学部附属病院の新病棟が竣工し、ひがし棟1階に未来開拓センターが開設された。

6月 循環型地域医療連携システム学(千葉)寄附講座が設置された。（～25年3月）平成20年度「グローバルCOEプログラム」研究教育拠点形成費等補助金により「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」が採択された。（～25年3月）

9月 平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」大学改革推進等補助金により、「学習成果基盤型教育による医学教育の実質化」が採択された。

21年 4月 入学定員が10名増となり、定員が110名（3年次編入学 MD-PhD コース定員5名含む）となった。大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに心血管外科学が設置された。

22年 4月 入学定員が5名増となり、定員が115名（3年次編入学 MD-PhD コース定員5名含む）となった。大学院医学研究院神経科学研究部門に連携講座として精神神経科学が設置された。

23年 4月 入学定員が5名増となり、定員が120名（3年次編入学 MD-PhD コース定員5名含む）となった。大学院医学研究院に子どものこころの発達研究センターが設置された。大学院医学研究院において、連携講座として病態制御部門に医療行政学が設置された。

6月 千葉大学医薬系総合研究棟IIが竣工した。

10月 先進加齢医学寄附講座が設置された。

24年 1月 大学院医学研究院を母体として「千葉大学未来医療教育研究センター」が設置された。

2月 大学院医学研究院にクリニカル・スキルズ・センターが設置された。

24年 4月 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」大学改革推進等補助金による「国際協力がん臨床指導者養成拠点」が採択された。「子どものこころの発達研究センター」を母体として、大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所に新規参加した。大学院医学薬学府、4年博士課程を3専攻から1専攻に改組された。



医学部附属病院新病棟



医学部本館

24年 7月 大学院医学研究院、7研究部門13講座から2研究部門7講座に改組された。

10月 平成24年度博士課程教育リーディングプログラム（免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム）が採択された。

25年 4月 入学定員が2名増となり、定員が122名（3年次編入学 MD-PhD コース定員5名含む）となった。総合医科学講座が設置された。地域災害医療学寄附講座が設置された。先進気道アレルギー学寄附講座が設置された。

8月 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に選定された。

26年 2月 千葉大学医学部新めのはな同窓会館が竣工した。

3月 「平成25年度国立大学強化推進補助金（次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創世のための亥鼻キャンパス高機能化構想）」が採択された。医学部記念講堂の改修工事が完了した。

4月 大学院医学研究院に法医学教育研究センター及び超高齢社会研究センターが設置された。先端肺高血圧症医療学寄附講座が設置された。医学部附属病院の新外来診療棟が竣工した。

7月 千葉大学未来医療教育研究機構が設置された。大学院医学研究院、2研究部門7講座から2研究部門9講座に改組された。

27年 2月 分子生体制御学研究領域が疾患生命医学研究領域に改称された。

4月 大学院医学研究院を母体として「千葉大学再生治療学研究センター」が設置された。大学院医学研究院の附属施設「子どものこころの発達研究センター」を改組し、「千葉大学子どものこころの発達教育研究センター」が設置された。

10月 循環器病先端治療学寄附講座が設置された。

28年 4月 大学院医学研究院に粘膜免疫・アレルギー治療学研究センターが設置された。先進予防医学共同専攻が設置された。

7月 近赤外画像診断学寄附講座が設置された。

29年 3月 生命機能治療学研究講座解剖学研究領域が、脳・神経治療学研究講座機能形態学領域に改称された。

4月 呼吸器疾患治療開発戦略共同研究講座が設置された。消化器・腎臓内科学研究領域が消化器内科学研究領域、腎臓内科学研究領域に改組された。

10月 ゲノム医科学連携講座及び医療機器国際基準認証学連携講座が設置された。

30年 4月 国際アレルギー粘膜免疫学研究領域、オミクス治療学研究領域、人工知能（AI）医学研究領域が設置された。先端脊椎関節機能再建医学寄附講座が設置された。大学院医学研究院に治療学人工知能（AI）研究センター及びバイオリソース教育研究センターが設置された。

5月 次世代型健康長寿ホルモンアカデミー寄附講座及び国際粘膜免疫・病態制御学連携講座が設置された。

10月 神経内科学研究領域が脳神経内科学研究領域に改称された。不整脈先端治療学寄附講座が設置された。

31年 1月 細胞治療内科学研究領域が内分泌代謝・血液・老年内科学研究領域に改称された。



千葉大学医薬系総合研究棟II



医学部附属病院新外来診療棟





研究院長  
中山 俊憲

(平成30年5月1日現在)

区分	氏名	在職期間
第一高等学校医学部長	長尾 精一	明治 20. 12 ~ 明治 27. 6
第一高等学校医学部長	長尾 精一	明治 27. 7 ~ 明治 34. 3
千葉医学専門学校長心得	長尾 精一	明治 34. 4 ~ 明治 34. 5
千葉医学専門学校長	長尾 精一	明治 34. 6 ~ 明治 35. 7
千葉医学専門学校長心得	荻生 録造	明治 35. 7 ~ 明治 35. 10
千葉医学専門学校長	荻生 録造	明治 35. 11 ~ 大正 3. 12
	三輪 徳寛	大正 3. 12 ~ 大正 12. 3
	三輪 徳寛	大正 12. 4. 1 ~ 大正 13. 2. 4
千葉医科大学長	松本 高三郎	大正 13. 2. 5 ~ 昭和 4. 7. 31
	高橋 信美	昭和 4. 8. 1 ~ 昭和 15. 11. 6
千葉大学医学部長	小池 敬事	昭和 15. 11. 7 ~ 昭和 24. 5. 30
	(千葉大学長兼任) 小池 敬事	昭和 24. 5. 31 ~ 昭和 24. 10. 5
	加賀 勇之助	昭和 24. 10. 6 ~ 昭和 27. 10. 5
	赤松 茂	昭和 27. 10. 6 ~ 昭和 30. 10. 5
	荒木 直躬	昭和 30. 10. 6 ~ 昭和 33. 10. 5
	谷川 久治	昭和 33. 10. 6 ~ 昭和 37. 3. 1
	(事務取扱) 谷川 久治	昭和 37. 3. 2 ~ 昭和 37. 3. 31
	鈴木 正夫	昭和 37. 4. 1 ~ 昭和 39. 3. 31
	滝沢 延次郎	昭和 39. 4. 1 ~ 昭和 42. 3. 31
	鈴木 次郎	昭和 42. 4. 1 ~ 昭和 43. 1. 11
	(事務取扱) 谷川 久治	昭和 43. 1. 12 ~ 昭和 43. 1. 24
	小林 龍男	昭和 43. 1. 25 ~ 昭和 44. 5. 29
	(事務取扱) 相磯 和嘉	昭和 44. 5. 30 ~ 昭和 44. 11. 30
	相磯 和嘉	昭和 44. 12. 1 ~ 昭和 45. 7. 31
	松本 胖	昭和 45. 8. 1 ~ 昭和 48. 3. 31
	横川 宗雄	昭和 48. 4. 1 ~ 昭和 50. 3. 31
	香月 秀雄	昭和 50. 4. 1 ~ 昭和 51. 7. 31
	横川 宗雄	昭和 51. 8. 1 ~ 昭和 53. 7. 31
	井出 源四郎	昭和 53. 8. 1 ~ 昭和 57. 7. 31
	萩原 彌四郎	昭和 57. 8. 1 ~ 昭和 59. 7. 31
吉田 亮	昭和 59. 8. 1 ~ 昭和 61. 7. 31	
木村 康	昭和 61. 8. 1 ~ 昭和 63. 7. 31	
村山 智	昭和 63. 8. 1 ~ 平成 2. 7. 31	
林 豊	平成 2. 8. 1 ~ 平成 4. 7. 31	
近藤 洋一郎	平成 4. 8. 1 ~ 平成 6. 7. 31	
高橋 英世	平成 6. 8. 1 ~ 平成 8. 7. 31	
谷口 克	平成 8. 8. 1 ~ 平成 12. 7. 31	
福田 康一郎	平成 12. 8. 1 ~ 平成 17. 3. 31	
徳久 剛史	平成 17. 4. 1 ~ 平成 21. 3. 31	
中谷 晴昭	平成 21. 4. 1 ~ 平成 25. 3. 31	
横須賀 収	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31	
中山 俊憲	平成 27. 4. 1 ~	
千葉大学大学院医学研究院長	福田 康一郎	平成 13. 4. 1 ~ 平成 17. 3. 31
	徳久 剛史	平成 17. 4. 1 ~ 平成 21. 3. 31
	中谷 晴昭	平成 21. 4. 1 ~ 平成 25. 3. 31
	横須賀 収	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31
	中山 俊憲	平成 27. 4. 1 ~
千葉大学大学院医学薬学府長	千葉 胤道	平成 13. 4. 1 ~ 平成 15. 3. 31
	(薬学研究院教授) 石川 勉	平成 15. 4. 1 ~ 平成 17. 3. 31
	(薬学研究院教授) 守屋 秀繁	平成 17. 4. 1 ~ 平成 19. 3. 31
	(薬学研究院教授) 山本 恵司	平成 19. 4. 1 ~ 平成 20. 3. 31
	堀江 利治	平成 20. 4. 1 ~ 平成 21. 3. 31
	張ヶ谷 健一	平成 21. 4. 1 ~ 平成 23. 3. 31
	(薬学研究院教授) 山本 友子	平成 23. 4. 1 ~ 平成 25. 3. 31
	(薬学研究院教授) 羽田 明	平成 25. 4. 1 ~ 平成 27. 3. 31
	(薬学研究院教授) 山口 直人	平成 27. 4. 1 ~ 平成 29. 3. 31
	白 澤 浩	平成 29. 4. 1 ~

## 亥鼻地区の記念碑等

### Monuments of Inohana Campus



ヒポクラテス胸像



辛亥革命記念碑

この胸像は、医学部本館正面階段の1階から2階への踊り場に置かれており、嶋田宗之先生（昭和9年卒業）から寄贈された。

医学の祖、ヒポクラテス（Hippocrates, BC460～377）を医の倫理の原点として、ことに若い医学徒達に思い起こして欲しいとの嶋田先生のお心に由来する。昭和61年（1986年）1月27日、先生ご夫妻他多数のご列席のもとに除幕式が挙行された。

正面のプレートには次のように記されている。

この胸像はフィレンツェのウフィッツイ美術館所蔵のもの複製（1980年）を本学昭和9年卒の嶋田宗之先生が寄贈されたものである。

1985年12月千葉大学医学部

この記念碑（高さ228cm巾82cm厚さ14cm）は、大正元年（1912年）11月9日に建立され、その後場所を変え、現在、医学部本館前庭の一隅に建てられている。

当時の中国は、外からは外国の侵略に晒され、内には清朝末期の墮落した王朝政治が行詰り、内憂外患革命の気運漸く昂まるという状況にあった。その頃、わが千葉医学専門学校には、39名の中国留学生が滞留して居り、祖国の難を憂え、同士相集いて救国の志に燃え、戦陣に駆け参ずることを誓いあったのである。この快挙を契機に他の大学にもその情報は波及し、多勢の中国留学生の決起を促すことになったというのである。

碑文の中の諸先生とは、時の校長荻生録造先生であり、学生の要請を受けて文部省、外務省に要望し、戦陣より帰還の後必ず復学せしむるとの認可を取り付け、戦陣へ送り出すことを決したという。

1911年秋から翌12年春にかけて孫文先生を盟主として熾烈な戦闘の末、同年3月9日孫文先生を臨時大統領として中華民国樹立を果たしたのである。戦時に馳せ参じた留学生も同年4月頃には帰学することとなり、全学挙げての支援に感謝し、恩義に対する礼節を示すために半歳を費やして記念碑を建立したのである。

#### 碑文の全文

王綱紐を解きてより（清朝宣統皇帝の退位）共和政治が始めて打ち建てられ、中華民国が出来たが、国歩艱難、戦争は絶えず。伏屍は川を塞ぎ、山野を血ぬらしている。この人民の悲しみは誰が護るのであろうか。三軍を励ますのは赤十字の旗、生死肉骨難を救い危機を助ける。諸先生も学友達も極めて公平で、平和な世の中を願っている。世の中に仁寿を致し、人道を広め、徳意が盛んである。樹を植え、碑を建てて万年永く讃える。（土井申一訳）



明治42(1909)頃



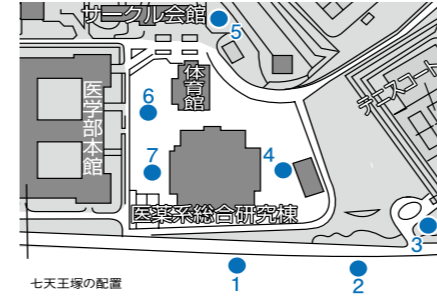
記念像



長尾精一君像



荻生録造君像



七天王塚



4号塚



6号塚

この塔は、医学部正門を入って正面の木立の中に立っている。向って右側面に長尾精一先生像が、左側面に荻生録造先生像のレリーフがはめ込まれている。

正面に医学部創立85周年（昭和35年）の記として、次の一文が刻まれている。

君は明治13年6月初めて公立千葉病院長として来任し、同院が県立千葉医学校、第一高等学校医学部、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と逐次昇進するに随うて、常にその長となり、明治35年7月病没する迄本学部前身の発展の為に挺身した。

君は明治17年7月県立千葉医学校教諭として来任し、同35年11月長尾精一の跡を襲うて千葉医学専門学校長となり、大正3年12月病没する迄本校の拡充進展に努めた。

明治中、両君の功を称え徳を頌して銅像が建てられたが恨むらくは戦禍を蒙った、今次千葉大学医学部創立85周年を迎えるに當り 舊基に就いて遺影を刻して聊か復元の意を表す。

千葉市を流れる都川は、下総台地の西北を回って千葉港に注ぐ。この大地の鼻先が亥鼻台である。亥鼻の南に続く台地が矢作台であり、西のそれが葛城台である。千葉医大の構地は広く、亥鼻と矢作の両台に跨るが、これら両台のうち亥鼻台に俗にいう千葉の七天王塚がある。七天王塚のうち五塚は千葉医大の旧附属病院の南側に散在し、残る二塚は旧東金街道が北に向って、いわゆる大学坂となって終る頃、その西側にある。

千葉の里人は、これら七塚を牛頭天王の七塚と呼び、昔から畏敬の念を持って守ってきた。この七天王塚は「凶」に示した如く、一号から七号までの番号がつけられている。

これら七塚の大きさは、いずれも10mの円ないし類円形にみえた。また、その高さは第一および第二号が1.5mほどの小円墳を思わせ、残りの五塚すなわ

ち医大の構内のものは、高さ0.5m程度の盤状であった。

塚のいずれにも数本の大樹をみる。樹種には榊が多く、中でも最大は三号塚のそれで、胸高幹囲りが約6m、推定の樹齢は150年であった。また昭和54年の晩秋に枯れた七号塚の松の幹囲りは約5m、推定の樹齢は約200年であった。

多くの老樹または神木に小枝一本払い落しても「祟る」との民俗学的伝承がある。

七天王塚の老木の根元には高さ50cm足らずの数基の石碑がひっそりと並んでいた。風化のため碑面を読むことができないものも若干あったが、石碑の形、大きさを参考として碑文の大部分を読み取ることができた。石碑は8種類。そのうち造営年月が最も古く、かつ、いずれの塚にも見ることができたものは1種類あった。それは正面の題銘が「堀内

牛頭天王」。脇の施主銘が「大治元丙午六月朔 平常重代」。造営銘が「安永癸巳造営」と刻してあった。

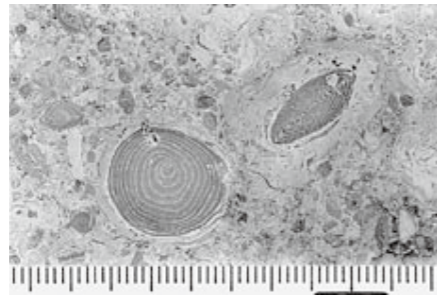
千葉市は昭和35年3月に牛頭天王七塚を千葉市指定史跡と認定し、昭和49年3月の日付で次の文を各塚に掲げた。

千葉大学附属病院裏に散在するこの七つの古塚は「七天王塚」と呼ばれ、疫病、災害を除く神として崇められている。塚上の石碑に刻まれる「牛頭天王」は千学集に記される千葉の守護神は曾場鷹大明神、堀内牛頭天王云々に相当てられる。猪鼻城の大手口に七つの塚を千葉氏の崇敬する北斗七星の形に配置し、牛頭天王を祀り一族の繁栄を祈ったものであろう。また一説に千葉氏の七人の兄弟を葬った墓とか平将門の「七騎武者の墓」とも伝えられるが定かでない。

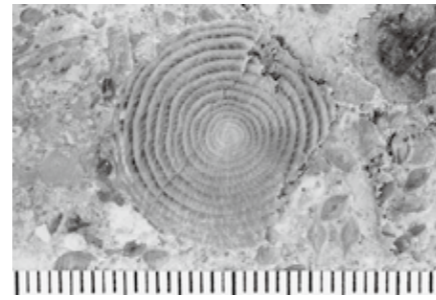
(千葉市教育委員会 昭和49年3月)



類縁属 Assilina eyponens (SOWARBY) 周囲に豆粒様の小さい貨幣石が見られる



左下、貨幣石の断面の形態、横断面に近い  
右上、貨幣石の断面の形態、縦断面に近い



貨幣石 Nummulites beaumonti d' ARCHIAC & HAME

### 貨幣石大理石

千葉大学医学部（旧病院）は昭和6年から12年に亘りあしかけ7ケ年の歳月を費やして建造され、建設当時はドイツ医学の粹を集め、東洋一の病院と称せられたといわれている（千葉大学30周年史：1980）。

医学部正面玄関から入った小広場、1階から4階に昇る各階段、1階の階段の裏側にある別の小広場、その周辺の柱などを肌色の大理石で化粧している。建造当時、国が多大な関心と期待と願望とをこめて、当時としては容易に入手困難であったと思われる貨幣石大理石をイタリアから輸入し、多量に用いている。現在、調べた範囲内において古第三紀の標準

化石たる貨幣石を含む大理石が日本国内において、医学部の建物を除いた以外の場所に、これ程多量に用いられている所は未だ明らかになっていない。鑑定に役立つ貨幣石化石に基づくと、医学部の貨幣石大理石の地質時代は始新世中期の末（ルテシアン階後期）～後期の初め（プリアボニン階初期）と考えられ、それは約4600万年前～3900万年前の生成のものであった。この貨幣石大理石は、パリの古い建造物に使用されている貨幣石大理石と、またエジプトのスフィンクスの頭部やギゼーのピラミッドの化粧板の貨幣石大理石やカフラー王のピラミッドの

最上部に残る化粧板の貨幣石大理石と、大局的にみると、ほとんど同一時代のものであり、医学部のもものはイタリア産と言いつたことから、イタリア、エジプト、ギリシャなどに亘って広がっていた古地中海（テチス海）に形成された一連の貨幣石大理石の一端であるといえる。

医学部（旧病院）の建物は石材という一側面の観点にたてば、建築史上、重要な文化的遺産物としての価値が十分に内在するばかりでなく、文化的遺産物の背後にひそむ、はかり知れない歴史的重みのあることをひしひしと感ずる次第である。

# 土地・建物一覧

## Summary of Inohana Campus



医学部本館



あのはな記念講堂



あのはな同窓会館



亥鼻地区サークル会館



亥鼻地区体育館



学生寄宿舎(雄翔寮)



勝山セミナーハウス

区分	面積 (㎡)	所在地
亥鼻団地	262,149	千葉市中央区亥鼻1-8-1
勝山団地	1,512	安房郡鋸南町勝山398-1
合計	263,661	

名称	構造階数	建面積 (㎡)	延面積 (㎡)
医学部本館 (旧附属病院) 昭和12年 (昭和53年改修)	R造 地上5 地下1	8,192	35,033
附属動物実験施設 昭和53年	R造 地上5	831	4,200
あのはな記念講堂 昭和39年 (医学部創立85周年記念事業) (平成26年改修(一部))	R造 地上3 地下1	1,252	2,186
あのはな同窓会館 平成25年 (医学部創立135周年記念事業)	R造 地上2	545	656
亥鼻地区サークル会館 昭和2年 運動系20サークル, 文化系14サークルが利用可	R造 地上2 地下1	674	1,586
亥鼻地区体育館 昭和53年 1階・柔道, 剣道, 空手 2階・バレー, バスケット, バドミントン, 卓球	R造 地上2	660	1,065
学生寄宿舎(雄翔寮) 昭和54年 収容人数60名(個室) 各階に談話室, 捕食・湯沸し室 1階にシャワー室2箇所	R造 地上3	367	1,093
亥鼻地区サークル部室 平成23年9月完成 サークル部室A:8部屋 サークル部室B:6部屋	S造 地上2	256	427

名称	構造階数	建面積 (㎡)	延面積 (㎡)
勝山セミナーハウス 平成16年 6畳和室2間, バス, トイレ, リビング・ダイニング・キッチン 通年使用可	W造 地上1	48	48

# 亥鼻キャンパス

## Inohana Campus

千葉城近くの高台にある亥鼻キャンパスには、医療系3学部と関連センターが設置されています。2011(平成23)年9月に、薬学部が西千葉キャンパスから移転し、医学部、薬学部、看護学部が同一のキャンパスに集まりました。千葉大学医学部附属病院も隣接しており、医療系の教育・研究の拠点となっています。

亥鼻地区 亥鼻キャンパス 約267,000㎡

〒260-8670 (医) 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
 〒260-8675 (薬) 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
 〒260-8672 (看) 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
 TEL 043-222-7171



### 地図

#### 医学部

- ① 医学部(事務)
- ② 医学研究院附属動物実験施設

#### 附属病院

- ③ 医学部附属病院

#### 薬学部

- ④ 薬学部、医薬系総合研究棟1
- ⑤ 薬学部(事務)、医薬系総合研究棟2

#### 看護学部

- ⑥ 看護学部(事務)
- ⑦ 看護・医薬系総合教育研究棟

#### その他

- ⑧ 附属図書館亥鼻分館
- ⑨ 千葉大亥鼻イノベーションプラザ
- ⑩ 体育館
- ⑪ あのはな記念講堂
- ⑫ あのはな同窓会館
- ⑬ サークル会館
- ⑭ 学生寄宿舎
- ⑮ 亥鼻地区厚生施設
- ⑯ 学生相談室
- ⑰ 真菌医学研究センター
- ⑱ あのはなテラス



0 50 100 150 200m